

MATSUSHIRO CASTLE-TOWN RUINS 2ND

松代城下町跡(2)

～殿町～

八十二銀行松代支店新築工事にともなう
埋蔵文化財発掘調査報告書

2005年3月

長野市教育委員会

序

長野市は、彩り豊かな山並みを仰ぎ、千曲川・犀川の大河に抱かれた肥沃の地に、悠久の歴史を刻んでいます。特に松代町は、昭和56年に国史跡に指定された松代城跡をはじめとする「史跡の町」として、全国的にも有数の観光拠点となっております。平成7年度から始めた松代城跡の環境整備事業も平成16年4月に完成し、それを契機として「エコール・ド・まつしろ2004」と題する生涯学習イベントを開催しました。「エコール」とは、フランス語で「学校」という意味です。松代町全体を「趣味や生涯学習を楽しむ学校」として、来訪者に対して伝統芸能や武道などの公開や様々なおもてなし活動を行っております。活動を通して、地元と来訪者が楽しみ遊びながら学べる新しい観光地像を模索しています。

松代城下町は、真田10万石松代藩の城下町として、史跡松代城跡や象山神社などの著名な史跡のみならず、武家屋敷や神社仏閣などの町並みが往時の風情を今に残している、まさに町全体が「まるごと野外博物館」と言えるでしょう。このたび、八十二銀行松代支店が新築移転されることとなり記録保存を目的とした発掘調査を実施しました。ここに長野市の埋蔵文化財第110集として刊行いたします本書には、発掘調査によって得られた成果を詳しく掲載しております。調査成果は連綿と綴られてきた人々の歴史のほんの一部にすぎませんが、地域史解明の一助としてお役に立ていただければこの上ない喜びであります。

最後になりましたが、埋蔵文化財保護に対する深いご理解とご協力、ならびに発掘調査に際して多大なご尽力を賜りました株式会社八十二銀行本店総務部および松代支店の各位、近隣地元の皆様、そして建築工事を請け負われた建設業関係者、発掘作業に携わっていただきました地元発掘作業員の皆様、また、報告書刊行に至るまでご支援・ご指導賜りました関係機関・諸氏に厚く御礼申し上げ、本書の上梓をもってご挨拶にかえさせていただきます。

平成17年3月

長野市教育委員会
教育長 立岩 陸 秀

例 言

- 1 本書は、長野県長野市松代町松代における民間開発事業「八十二銀行松代支店新築工事」に先立ち実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査事業は、委託者 株式会社八十二銀行 取締役頭取 成澤一之 と、受託者 長野市長 鷺澤正一との埋蔵文化財発掘調査委託契約に基づき、平成15～16年度にかけて長野市教育委員会（文化財課埋蔵文化財センター担当）が実施した。
- 3 発掘調査地籍は、長野県長野市松代町松代（字殿町）174-1番地ほかである。開発事業の総面積約1,764㎡のうち、その全域を埋蔵文化財保護対象面積とし、うち建物部分390㎡を発掘調査の実施対象範囲とした。現地における発掘調査は平成15年度に実施し、整理調査は平成16年度に実施した。
- 4 現場における発掘調査は矢口の指導の下飯島が担当し、山野井が補助した。整理調査および本書の編集は飯島が担当し、各調査員・作業員が作業を分担した。執筆分担は目次に示してある。
- 5 発掘調査の実施に際し、事業委託者である株式会社八十二銀行におかれては、埋蔵文化財に対して深いご理解をいただき絶大なご協力を賜った。また保護協議、現場および整理事業において下記の方々・機関より有益なご指導・ご助言をいただいた。深甚なる謝意を表し明記するものである。（敬称略）

株式会社八十二銀行 本店総務部 小林健一副部長、宮島博男グループ長、町田源治郎調査役、塩川 敬
株式会社エーシーエ設計 設計部 洪川好文部長、小林 徹チーフ
長野県厚生農業協同組合連合会 長野松代総合病院 村松友雄事務長、松澤俊宏施設課長
株式会社アルカ 代表取締役 角張淳一、研究部土器課長 西本正憲
- 6 調査によって得られた諸資料は、長野市教育委員会文化財課埋蔵文化財センターで保管している。なお、出土遺物の注記記号は、「MJ82」と英数字で表記してある。
- 7 本書における資料掲載の要領は下記のとおりである。
 - (1) 基準点測量および遺構測量は、平面直角座標系の第Ⅷ系の座標値（旧日本測値系）と日本水準原点の標高を基準とした。
 - (2) 検出した遺構の略記号については、調査時に遺構の性格や機能についてが不明であったことから、発見順に番号を付している。例として「①-1」は「第1次遺構検出面の1号遺構」という意味である。
 - (3) 遺物に関しては、原寸で実測図を作成した。本書では基本的に土器・陶磁器実測図1/4に統一してあるが、遺物の種類によってはこの限りではないため縮尺を明示してある。

本文目次

序文、例言、目次

第 I 章 調査の経過	(飯島) ... 1
第 1 節 保護協議経過	1
第 2 節 調査日誌抄	2
第 3 節 調査体制	2
第 II 章 発掘調査成果	(飯島) ... 3
第 1 節 発掘調査の概要	3
第 2 節 遺構と遺物	4
第 III 章 まとめ	(飯島) ... 38

報告書抄録、奥付

図版目次

第 1 図 周辺調査地位置図.....	1	第16図 2次面6号遺構出土陶磁器.....	18
第 2 図 1・2次面3次面遺構全体図	5	第17図 2次面7・9号遺構・検出面出土陶磁器・土器 ...	19
第 3 図 4次面遺構全体図.....	6	第18図 2次面出土陶磁器.....	20
第 4 図 2次面1～6号遺構.....	7	第19図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器.....	21
第 5 図 2次面7～9号遺構.....	8	第20図 3次面10号遺構出土陶磁器.....	22
第 6 図 2次面7～9号遺構胴木.....	9	第21図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器・土製品 ...	23
第 7 図 3次面10・18～23・29～30号遺構.....	10	第22図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器.....	24
第 8 図 3次面11・12号遺構	11	第23図 3次面10号遺構出土陶磁器.....	25
第 9 図 4次面1号遺構.....	12	第24図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器.....	26
第10図 4次面6号遺構.....	12	第25図 3次面10・11号遺構出土陶磁器・土器 ...	27
第11図 1次面1号遺構出土陶磁器.....	13	第26図 3次面11・14・16・17号遺構出土陶磁器・土製品 ...	28
第12図 1次面1・3号遺構・検出面出土陶磁器	14	第27図 3次面20・23号遺構出土陶磁器・土器 ...	29
第13図 1次面出土陶磁器・土器.....	15	第28図 4次面1・2・6・24号遺構出土陶磁器 ...	30
第14図 2次面1・2・3号遺構出土遺物.....	16	第29図 金属・骨角・ガラス製品.....	35
第15図 2次面4・5・6号遺構出土陶磁器.....	17	第30図 松代城下町の土地利用図.....	39

第I章 調査経過

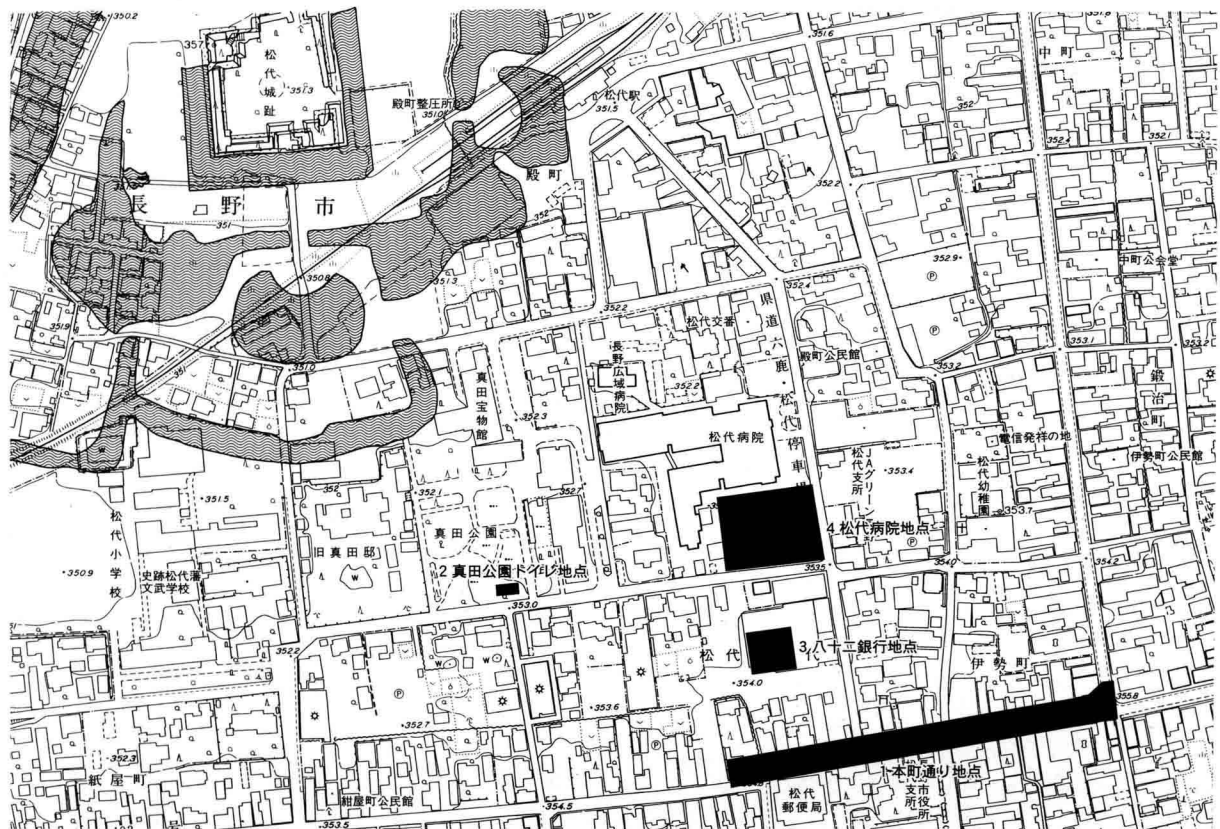
第1節 調査に至る経過

調査地は、埋蔵文化財包蔵地「松代城下町跡」範囲内に立地する。現況では、食料品スーパーの西友松代店や他の小規模店舗が同居する松代ショッピングセンターが存在した場所である。平成14年夏頃に西友松代店が営業を停止して以来、その敷地の一部を長野県厚生農業協同組合連合会長野松代病院の駐車場として利用される他は建物の残る空き地であった。

この地に株式会社八十二銀行松代支店新築移転が計画され、平成15年7月2日、開発側の設計担当者から埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。開発予定地は「松代城下町跡」範囲内であることから、遺跡が破壊される範囲について記録保存の為の発掘調査が必要となり、それに先だて、現在の埋蔵文化財包蔵状況を確認するため試掘調査を行うこととなった。同年7月22日、埋蔵文化財試掘調査依頼書および土地所有者の承諾書を受領した。同年7月28日に試掘調査を実施し、埋蔵文化財の包蔵を確認した。

同年8月8日「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書」および「埋蔵文化財発掘調査依頼書」「土地所有者の承諾書」が提出され、同年9月26日付けで事業全体に関わる「埋蔵文化財発掘調査協定書」、平成15年度分の「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」を締結した。

発掘調査は平成15年10月1日より開始し、同年11月6日に終了した。発掘調査対象地は、全事業面積1,764㎡のうち建物を建築する部分の390㎡であった。



第1図 周辺調査地位置図

第2節 調査日誌

【平成15年度 八十二銀行松代支店新築移転に伴う発掘調査】

9月30日	プレハブ設置、準備	24日	掘り下げ
10月1日	重機による表土掘削開始	27日	遺構掘削
6日	作業員による作業開始	29日	③次面全景写真撮影、遺構測量
7日	①次面・②次面遺構検出	30日	掘り下げ
14日	①次面・②次面全景写真撮影、遺構測量	11月4日	④次面遺構検出
20日	③次面遺構検出	5日	④次面全景写真撮影、遺構測量
23日	③次面全景写真撮影、遺構測量	6日	作業終了

第3節 調査体制

本調査は長野市長 鷲澤正一が受託し、長野市教育委員会の直轄事業として長野市埋蔵文化財センター（文化財課埋蔵文化財センター）が実施し、その組織は以下のとおりである。

調査主体者	長野市教育委員会	教育長	立岩 睦秀
調査機関	長野市埋蔵文化財センター	副参事兼所長	磯野 久夫（～H15年度）
		局主幹兼所長	矢口 忠良（H16年度～）
庶務担当	係長 山岸 恒雄	事務員	吉村 久江
		事務員	塚田 容子
調査担当	係長 青木 和明	専門員	遠藤恵実子
	主査 飯島 哲也（調査主任）	専門員	長瀬 出
	主査 風間 栄一（H15年度主事）	専門員	山野井智子（調査員）
	主事 小林 和子	専門員	藤原 崇志（～H15年度）
	専門員 小野由美子（～H15年度）	専門員	石丸 敦史
	専門員 堀内 健次	専門員	小出 泰弘
	専門員 宮川 明美（～H15年度）	専門員	森田 利枝
	専門員 清水 竜太	専門員	宮沢 浩司（報告書編集）
	専門員 山下 大輔（～H15年度）	専門員	山岸 千晃
発掘参加者	青木正次 一色茂喜 内山弘子 内山善徳 海沼けい子 窪田節子 小宮山盛雄 坂口一誠 坂口美知子 多城恵子 多門睦夫 新田早智子 橋爪孝次 半田芳子 保坂豊子 丸山武雄 宮尾秋男 宮尾秀男		
整理調査員	青木善子 池田寛子 多羅沢美恵子 鳥羽徳子 中殿章子 武藤信子 矢口栄子		
整理作業員	倉島敬子 小泉ひろ美 清水さゆり 関崎文子 富田景子 西尾千枝 三好明子 村松正子		
測量業務委託	株式会社写真測図研究所		
調査協力者	河西克造 北村典子 小林育英 宿野隆史 白沢勝彦 利根川淳子 原田和彦 降旗浩樹		

第Ⅱ章 発掘調査成果

第1節 調査概要

調査地は、神田川・蛭川・藤沢川などによって形成された合流複合扇状地の、扇端部にあたる緩傾斜地に位置し、千曲川氾濫原に接している。このため調査地付近の基本層序は、上記3河川の扇状地堆積物と千曲川による氾濫原堆積物が主体をなす。

当該起回事業の全事業面積1,764㎡のうち、建物を建築する部分の390㎡について発掘調査対象地とし、残りの駐車場予定部分は現状保存の措置とした。調査では4面の遺構検出面を確認した。

第1次遺構検出面（以下、①次面）は、カクラン除去後の現地地表下約80cm付近に設定した。この面にて確認した遺構は、明治～昭和時代初期にかけての所産と考えられるが、一部コンクリート片を含む現代の掘り込みの痕跡も存在している。よって現代の掘り込みを1次面に伴う遺構とし、明治から昭和初期と想定される遺構を第2次遺構検出面（以下、②次面）に伴う遺構とした。

第3次遺構検出面（以下、③次面）は、現地地表下約120cmの焼土層下面に設定した。第4次遺構検出面（以下、④次面）は、現地地表下約150cmに設定した。これより下層はグライ化した青灰色の砂質土層と粘質土層が互層となり埋蔵文化財は存在しない。

遺構番号 面 遺構	旧番号 面 遺構	性格	備考	時代	出土遺物図	
①-1	①-1	板組遺構	地下埋設コンクリート施設、板組で周囲を土留め	昭和	第11・12図	
①-2	①-2	溝状遺構	石・コンクリート片の埋土、建物基礎か？			
①-3	①-3	溝状遺構	石炭ガラの埋土		明治 昭和初期	第12図
①-4	①-4	溝状遺構	石・コンクリート片の埋土、建物基礎か？			
①-5	①-5	溝状遺構	石炭ガラの埋土			
①-6	①-6	溝状遺構	石・コンクリート片の埋土、建物基礎か？			
②-1	②-1	暗渠遺構	石・レンガ片の埋土	幕末 明治初期		第14図
②-2	②-2	暗渠遺構	石・レンガ片の埋土			
②-3	②-3	暗渠遺構	石・レンガ片の埋土		第14図	
②-4	②-4	暗渠遺構	石・レンガ片の埋土			
②-5	②-5	暗渠遺構	石・レンガ片の埋土		第15図	
②-6	②-6	暗渠遺構	石・レンガ片の埋土			
②-7	②-7	石積み遺構	重量系建物（土蔵？）の基礎か？下に桐木		第15・16図	
②-8	②-8	石積み遺構	重量系建物（土蔵？）の基礎か？下に桐木			
②-9	②-9	石積み遺構	重量系建物（土蔵？）の基礎か？下に桐木		第17図	
②-10	②-10	焼土層	②-7～9に閉鎖された範囲 上面・中・被熱面と分類			
③-11	②-11	石組み溝遺構	雨落ち溝か？ 石蓋の痕跡あり	江戸後期	第19～25図	
③-12	②-12	木組み溝遺構	用・排水路？ 木蓋の痕跡あり			
③-13	②-13	土坑			第25・26図	
③-14	②-14	土坑				
③-15	②-15	焼土層	②-7と③-11の間の範囲 ③-10と同一		第26図	
③-16	②-16	焼土層	②-8ラインより南側の範囲			
③-17	②-17	焼土層	③-11より西側の範囲		第26図	
③-18	②-18	土坑	柱穴列？ 小石の埋土で浅い			
③-19	②-19	土坑	柱穴列？ 小石の埋土で浅い		第27図	
③-20	②-20	土坑	柱穴列？ 小石の埋土で浅い			
③-21	②-21	土坑	柱穴列？ 小石の埋土で浅い	第27図		
③-22	②-22	土坑	柱穴列？			
③-23	②-23	土坑	柱穴列？	江戸後期		
③-26	②-26	石列遺構	③-11に切られている 比較的大型石材			
③-27	②-27	石列遺構	③-28と同一か？			
③-28	②-28	石列遺構	③-27と同一か？			
③-29	②-29	石列遺構	③-27・28とは軸が異なり、②-7～9と同じ			
③-30	②-30	土坑	③-10内の石囲い土坑			
③-31	②-31	溝状遺構	③-10内			
③-32	②-32	溝状遺構	③-10内			
③-33	②-33	溝状遺構	③-10内			
③-34	②-34	土坑列	③-10内 大型建物の基礎か？			
③-35	②-35	土坑列	③-10内 大型建物の基礎か？			
③-3	③-3	埋め桶	丸桶	江戸後期	第28図	
③-4	③-4	埋め桶	楕円形の桶（曲輪）			
④-24	②-24	土坑（池状遺構）	④-1土坑と同一遺構 ④-25桶出土 焼土・炭化物が埋土		第28図	
④-25	②-25	埋め桶	丸桶 底板半分のみ タガ残存			
④-1	③-1	土坑（池状遺構）	④-24土坑と同一遺構 ④-25桶出土 焼土・炭化物が埋土		第28図	
④-2	③-2	土坑	石囲い土坑 ③-30により破壊されている			
④-5	③-5	溝状遺構			第28図	
④-6	③-6	土坑（池状遺構）	杭列あり さらに西側にもう1基可能性あり 埋土は大型石材			
④-7	③-7	石組み溝遺構	雨落ち溝か？			

第1表 検出遺構一覧表

第2節 検出遺構と出土遺物

1次遺構検出面 【遺構：第2図 (P.5)】 【遺物：第11図～第13図 (P.13～15)】

①次面の主な遺構としては、コンクリート壁を含む性格不明な板組遺構(①-1遺構)と、石やコンクリート碎片、または石炭ガラが詰まっていた溝状遺構(①-2～6)を確認した。内部からは陶器甕とポピン巻きの生糸が出土している。①次面の遺構は、出土遺物から昭和期の遺構と考えられる。ただし①-1遺構はコンクリート壁の構築が、それ以前に構築・利用されていた板組遺構(地下室、ちかむろ)を再利用した可能性も考えられる。

2次遺構検出面 【遺構：第2, 4～6図 (P.5, 7～9)】 【遺物：第14図～第18図 (P.16～20)】

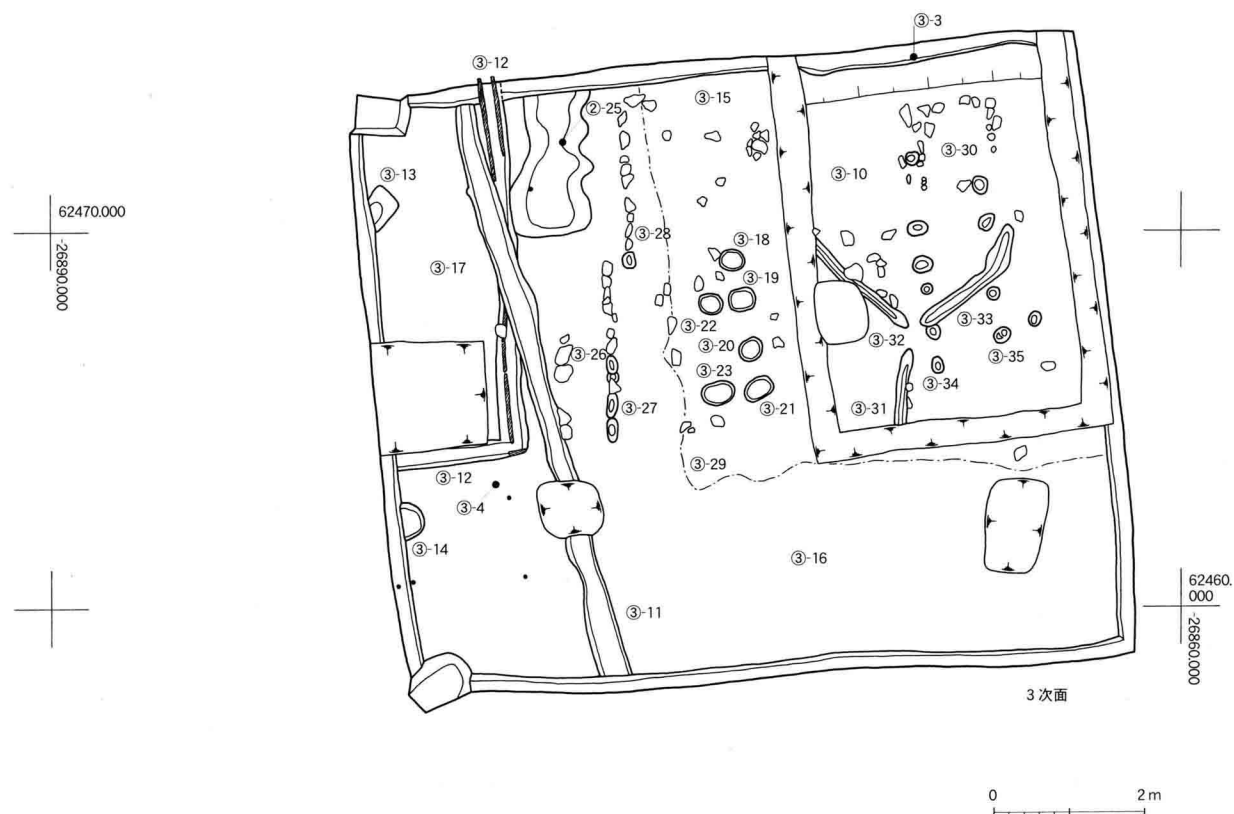
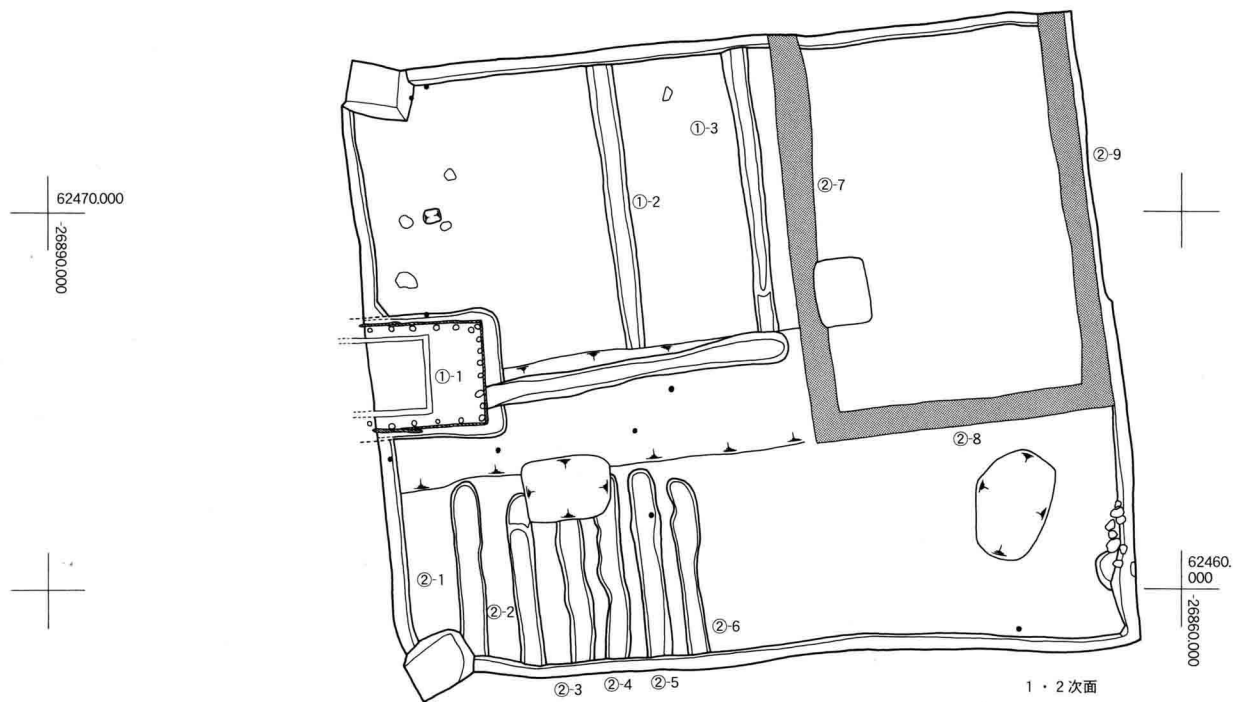
②次面では、石やレンガ片が詰まった暗渠状遺構(②-1～6)や、土蔵などの重量系建物の基礎と考えられる石積み遺構が検出された。石積み遺構は東西約8m、南北約12m(推定)の規模であり、30～50cm前後の石材を石垣状に積み上げている。残りの良い部分では3段積み上げられており、裏込めには栗石を充填していた。積石の下には松の丸太を2本並べて置き、胴木としている。丸太は直径約10～20cmで、屈曲部分は石の楔を打ち込んで矯正した痕跡が認められる。堅杭は施していない。

3次検出遺構面【遺構：第2, 7, 8図 (P.5, 10, 11)】 【遺物：第19図～第27図 (P.21～29)】

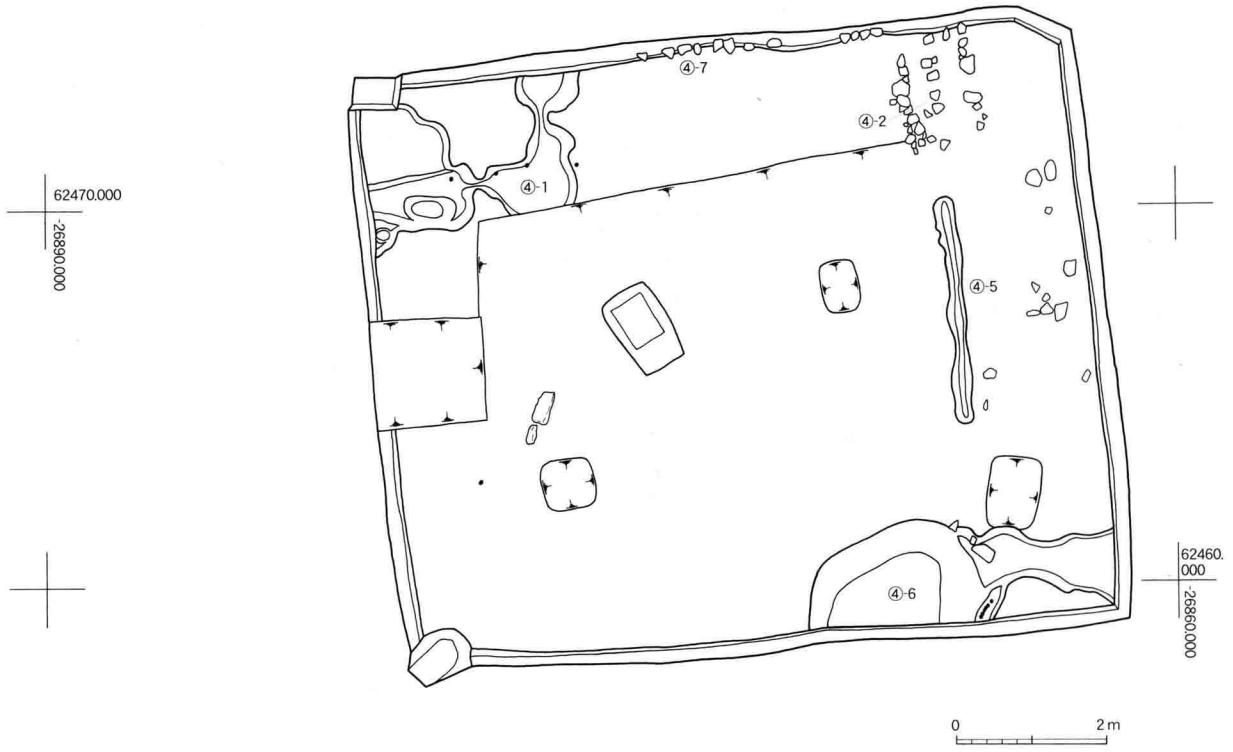
②-7～9遺構に囲繞された範囲には明瞭な焼土層の堆積があり、③次面として設定した。遺物の混入量も多く、火災後の整地層と考えられる。焼土層下面の被熱面において礎石と柱穴を検出した。これらはほぼ90cmの間隔で配されており、何らかの建物遺構と考えられる。調査区の北東側に規則的に配され、石列などを伴っている。建物の規模や構造については不明だが、位置関係からおそらく武家屋敷の母屋に一部となる可能性が考えられる。調査区西側では石組み溝遺構(③-11)と木組み溝遺構(③-12)が検出された。石組み溝遺構は10～20cm程度の小型石材を2列溝状に並べ、板石状の石材で蓋を架構していた部分も残存していた。規模・構造的には雨落ち溝としての性格が妥当と考えられるが、流路の軸が建物とは合致せず斜めとなっていることや、現存する絵図史料から、泉水路としての性格も考えるべきであろう。③-12は板状の木材を2本並列に配し、同じく木蓋を架構しているものである。底板がないことから排水施設としての機能が考えられるが、埋土に多量の瓦片が詰められていたことから廃絶時には暗渠化された可能性も考えられる。③-11に切られ、ほぼ直角に曲がり①-1に切られている。また地中に埋められたと考えられる桶が2個体出土した。③-3は丸桶で中から赤漆塗りの箸が出土した。③-4は楕円形の桶で底部のみの残存である。

4次遺構検出面【遺構：第3, 9, 10図 (P.6, 12)】 【遺物：第28図 (P.30)】

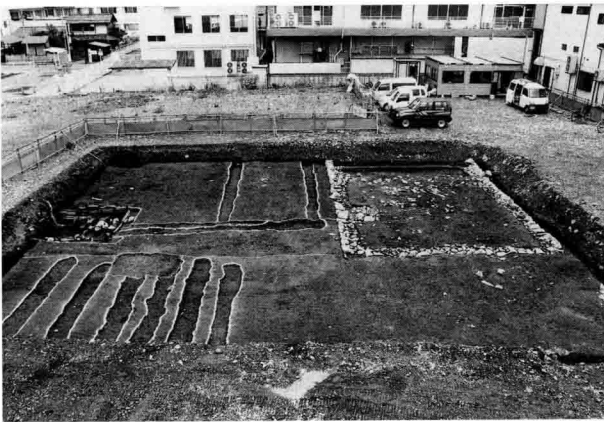
現地表下約150cmに設定した④次面では、2箇所池状遺構と考えられる土坑(④-1・6)が検出された。それぞれ護岸に杭列を伴っている。また④-1遺構には上層の焼土が落ち込んでおり、丸桶の底部(④-25)が出土している。



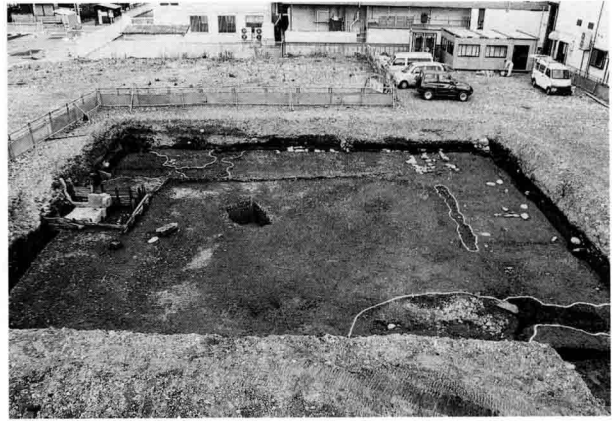
第2図 1・2次面・3次面遺構全体図 (S=1/200)



第3図 4次面遺構全体図 (S=1/200)



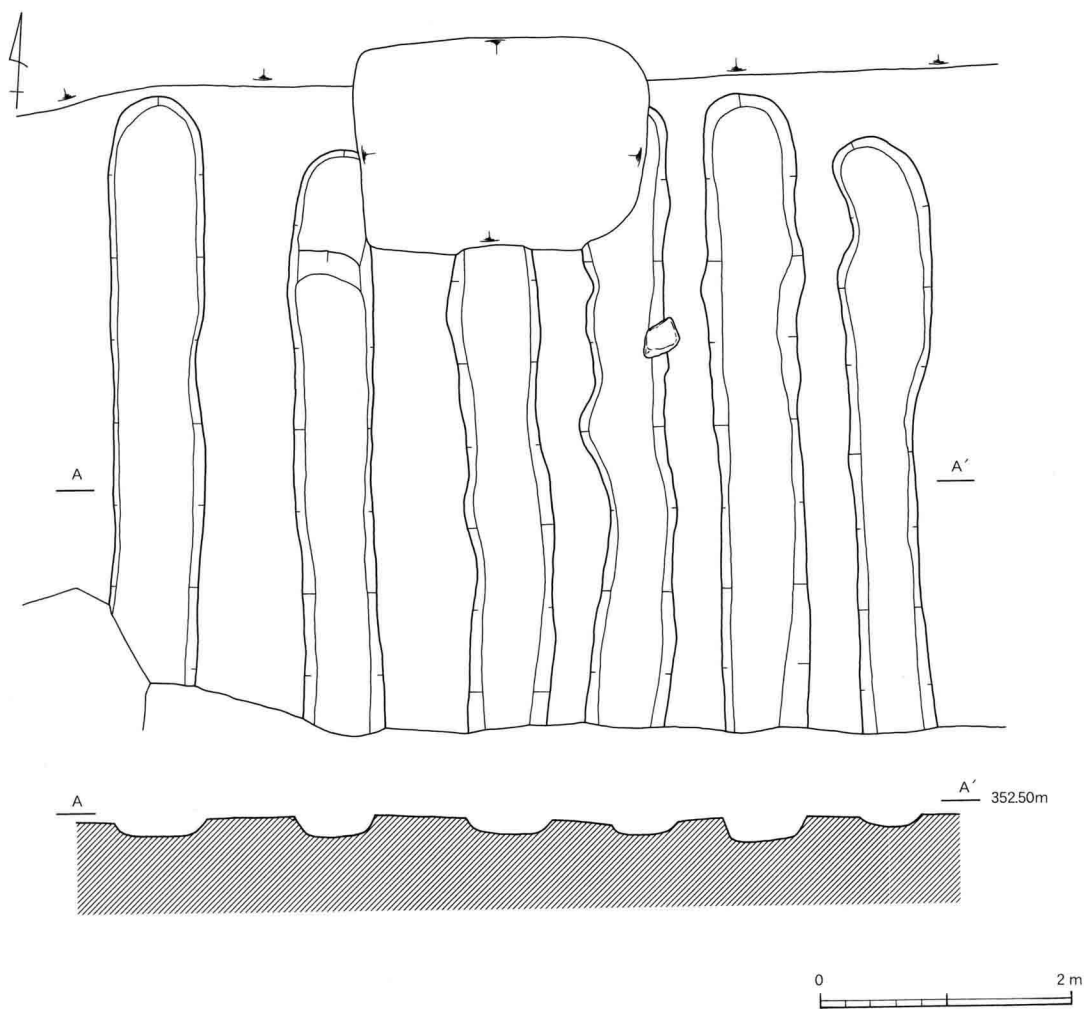
1・2次面



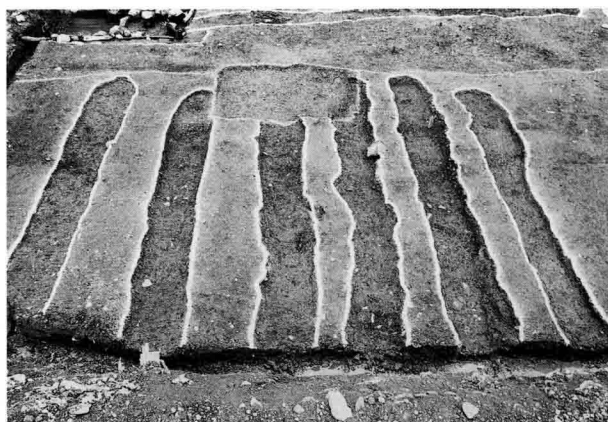
4次面



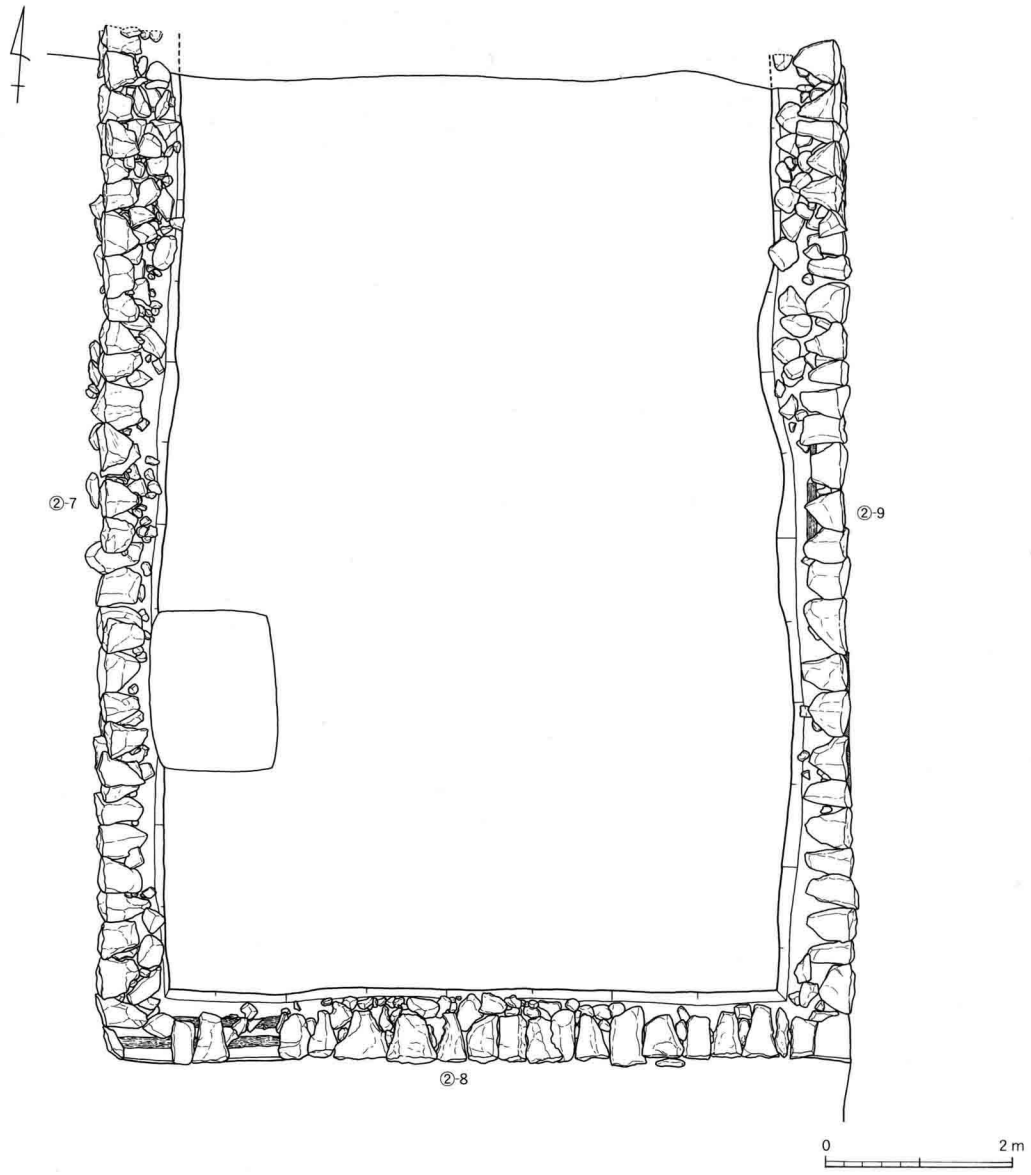
3次面



第4図 2次面1～6号遺構実測図 (S=1/60)



2次面1～6号遺構



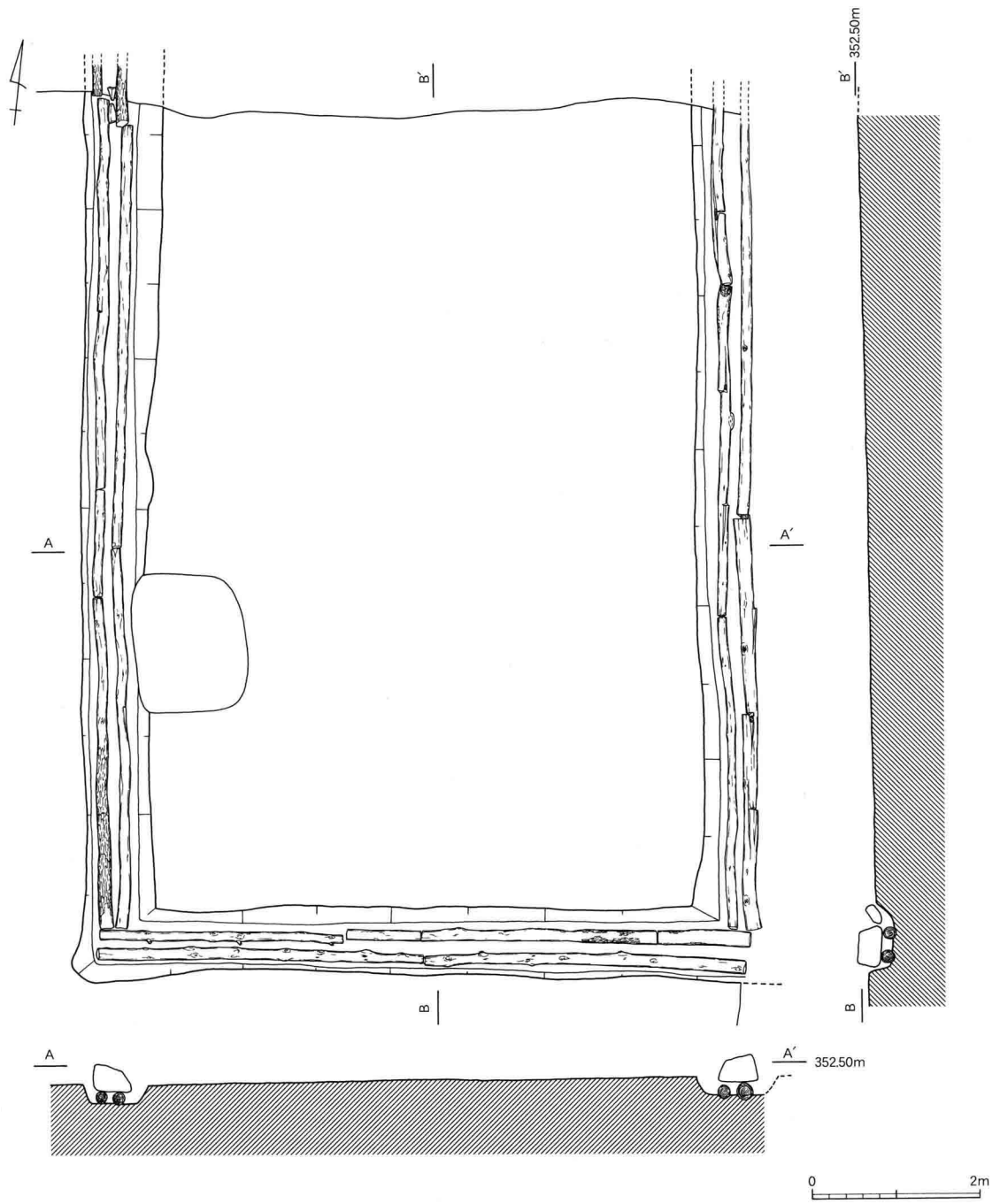
第5図 2次面7～9号遺構 (S=1/80)



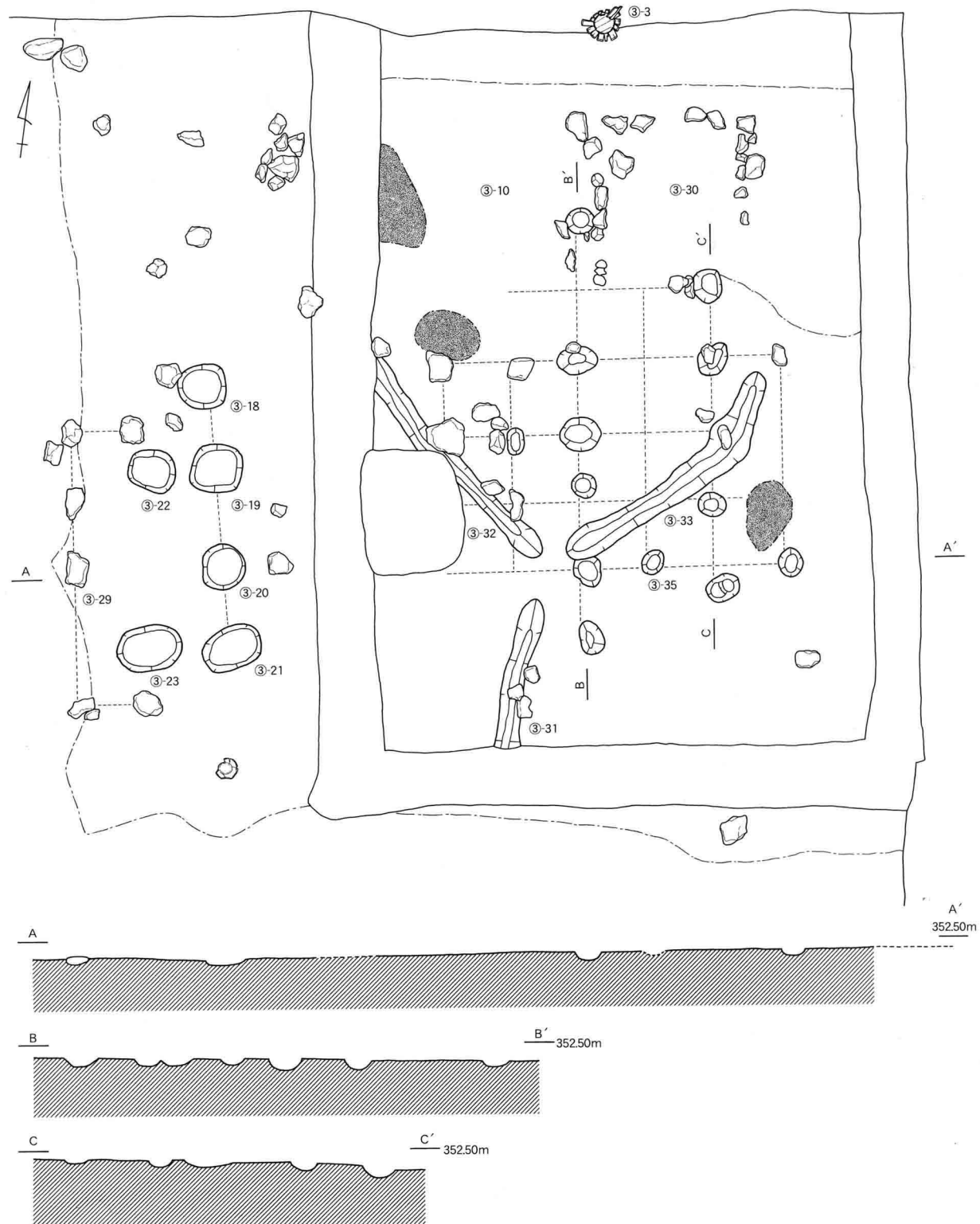
2次面7～9号遺構 (石積)



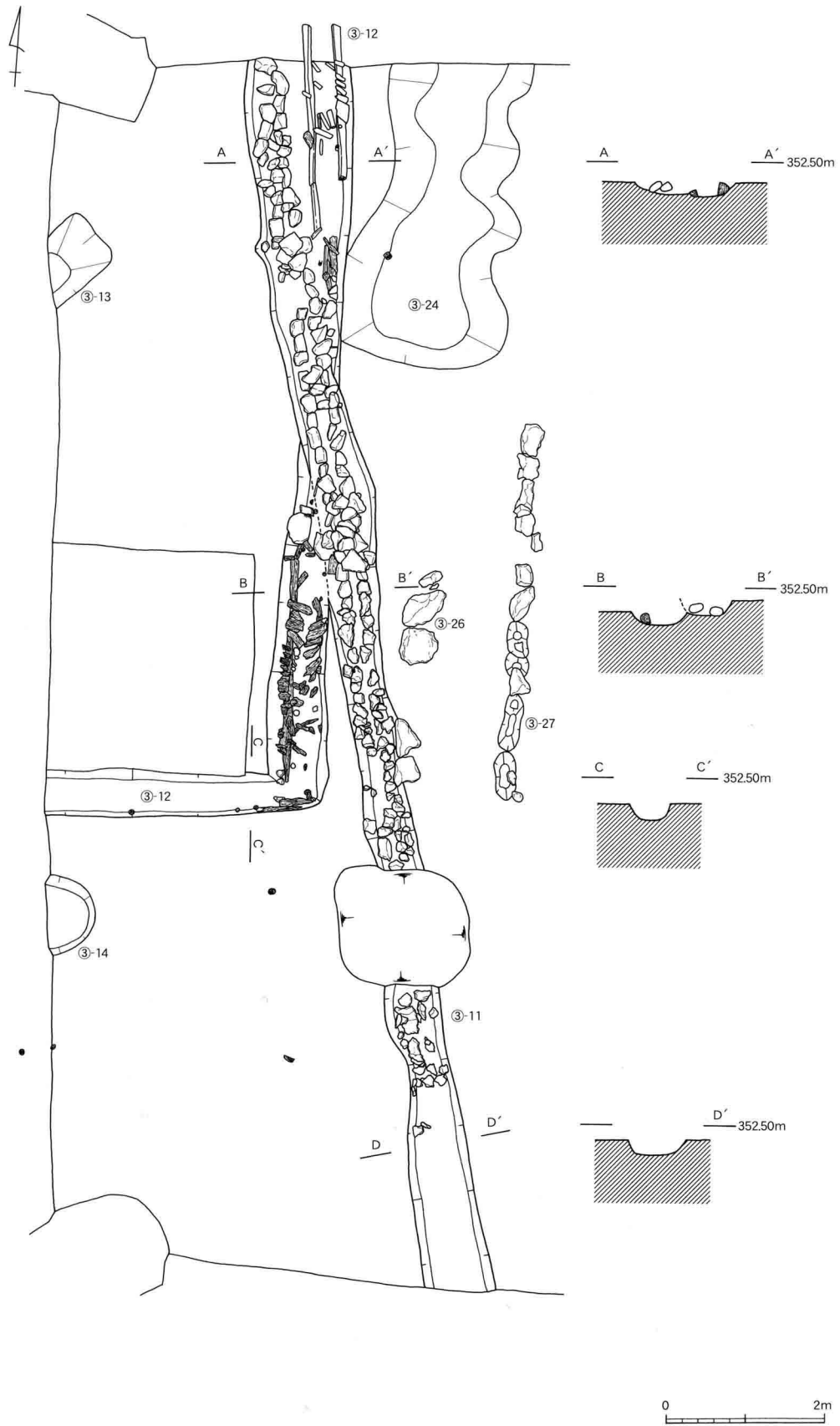
2次面7～9号遺構 (石積撤去)



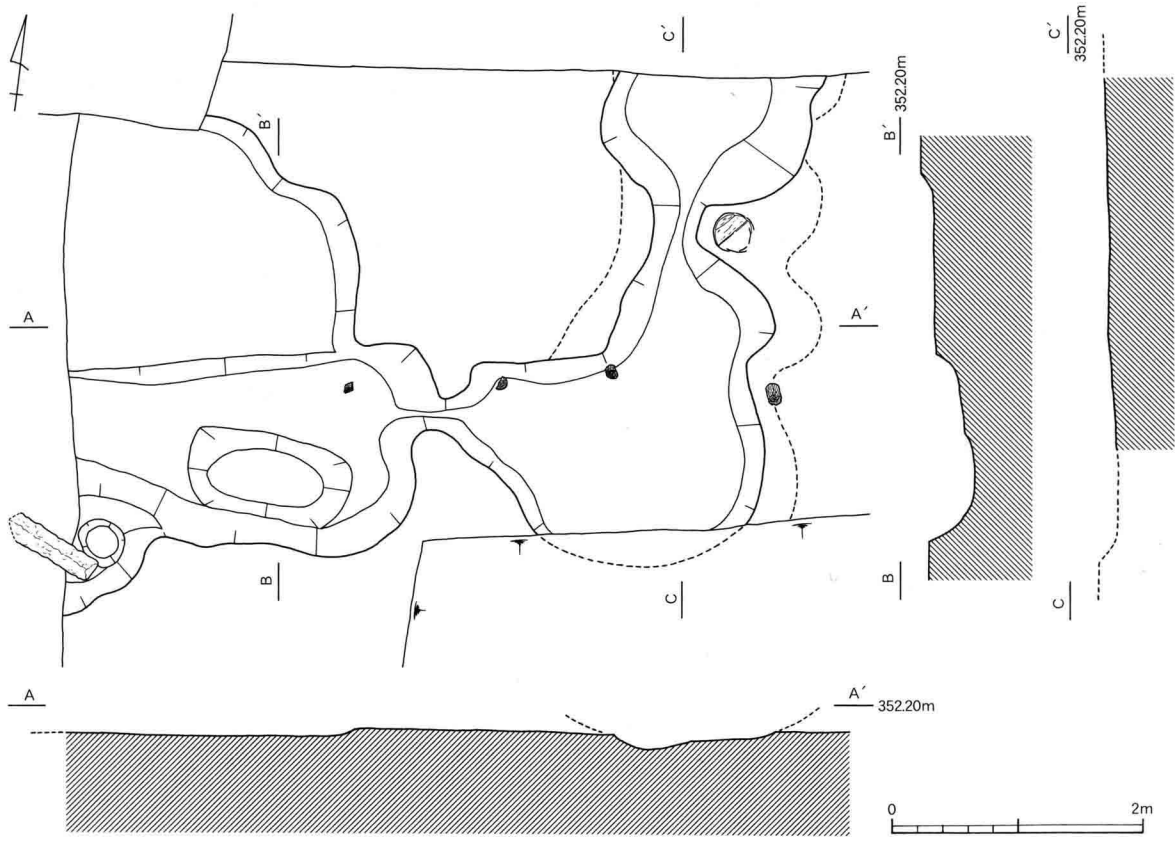
第6図 2次面7~9号遺構石積み下層胴木 (S=1/80)



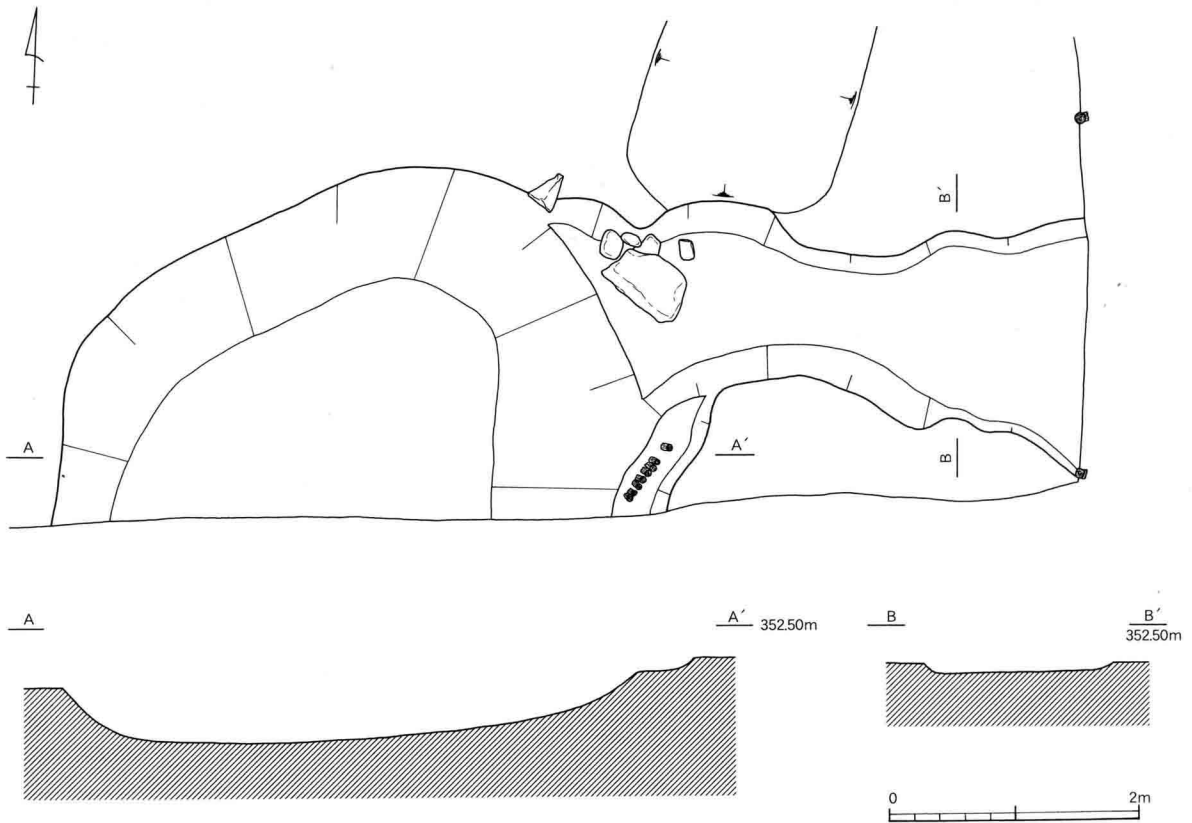
第7図 3次面10・18~23・29~35号遺構



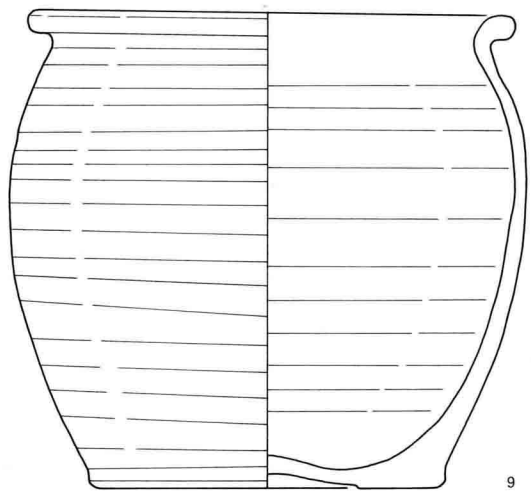
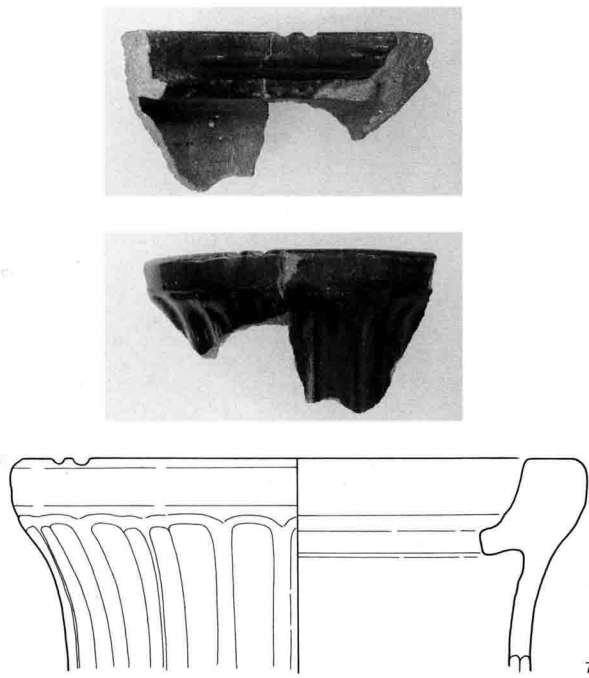
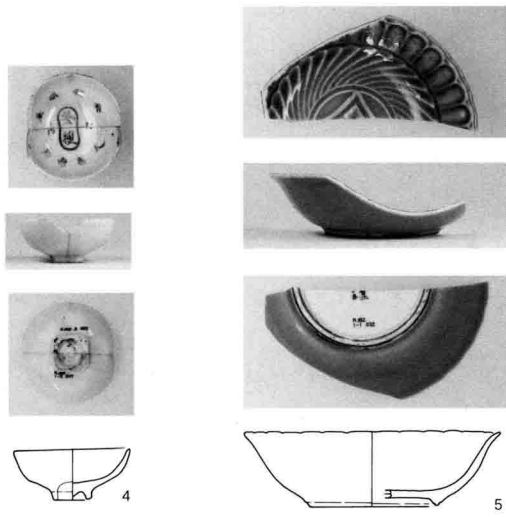
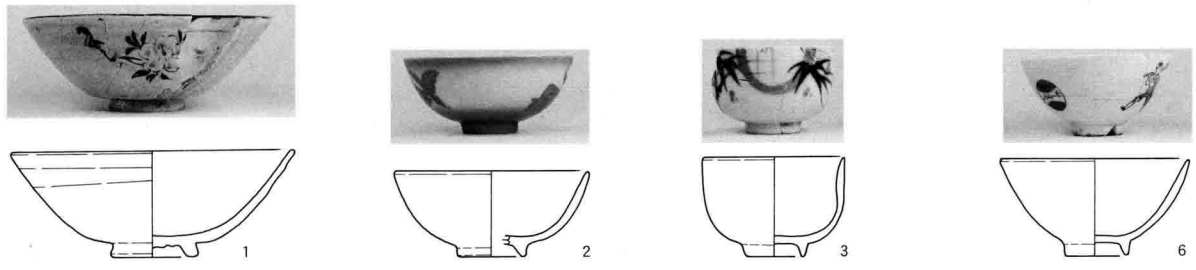
第8図 3次面11・12号遺構 (S=1/80)



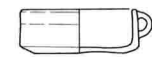
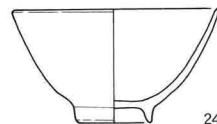
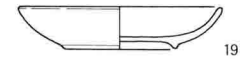
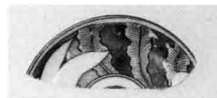
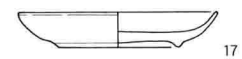
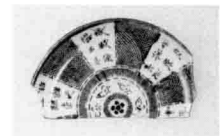
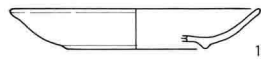
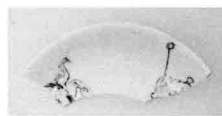
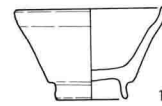
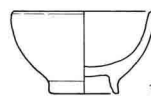
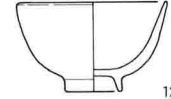
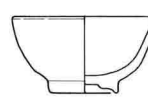
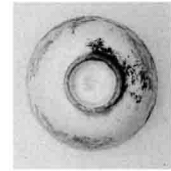
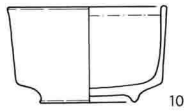
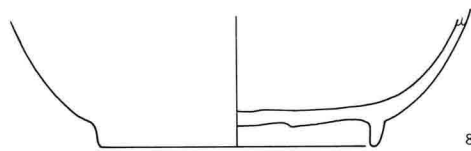
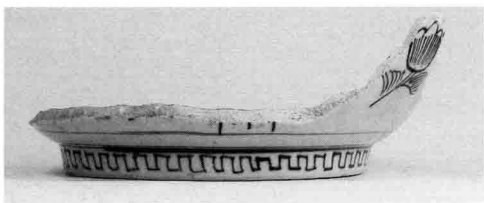
第9図 4次面11号遺構 (S=1/60)



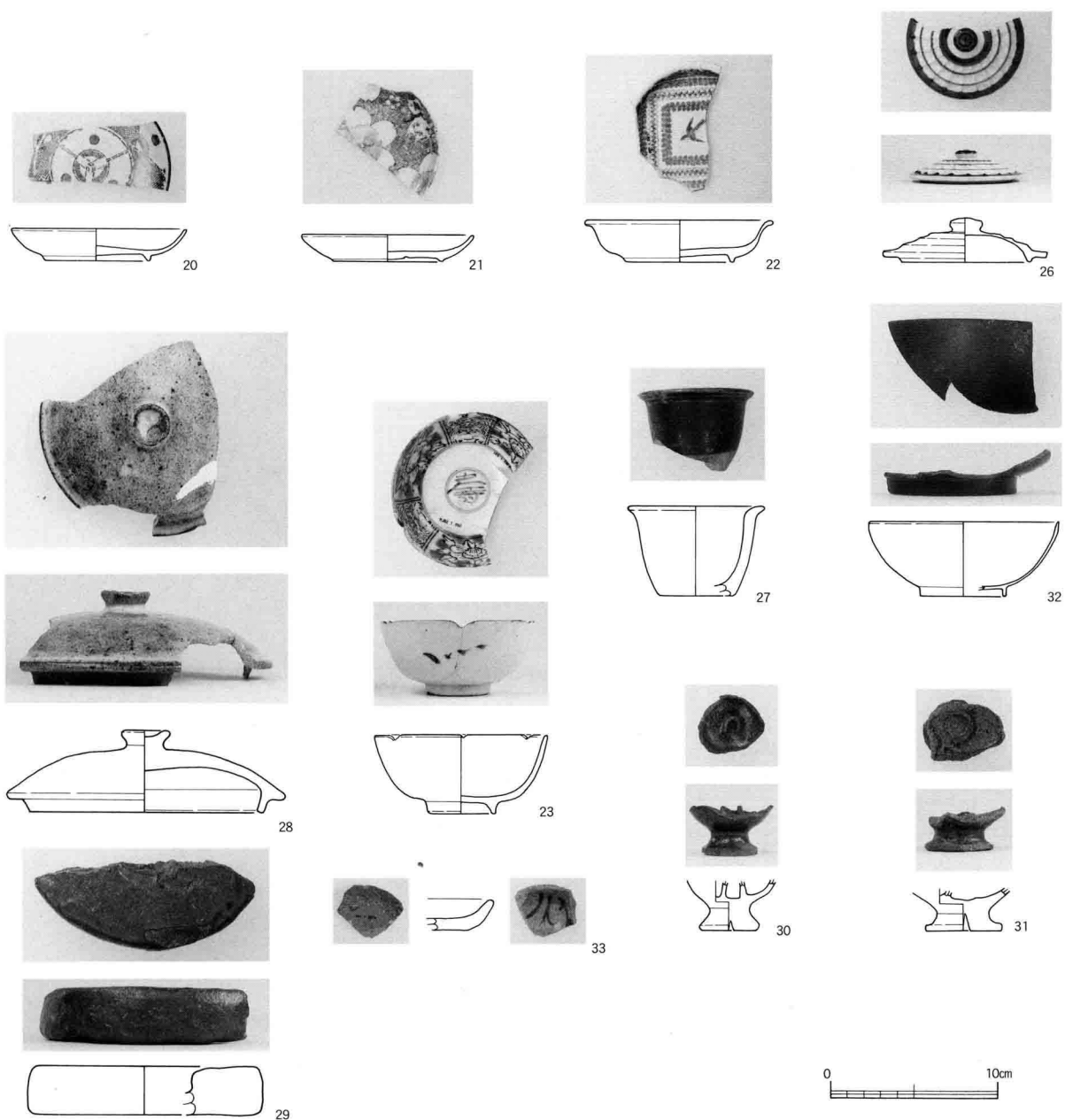
第10図 4次面6号遺構 (S=1/60)



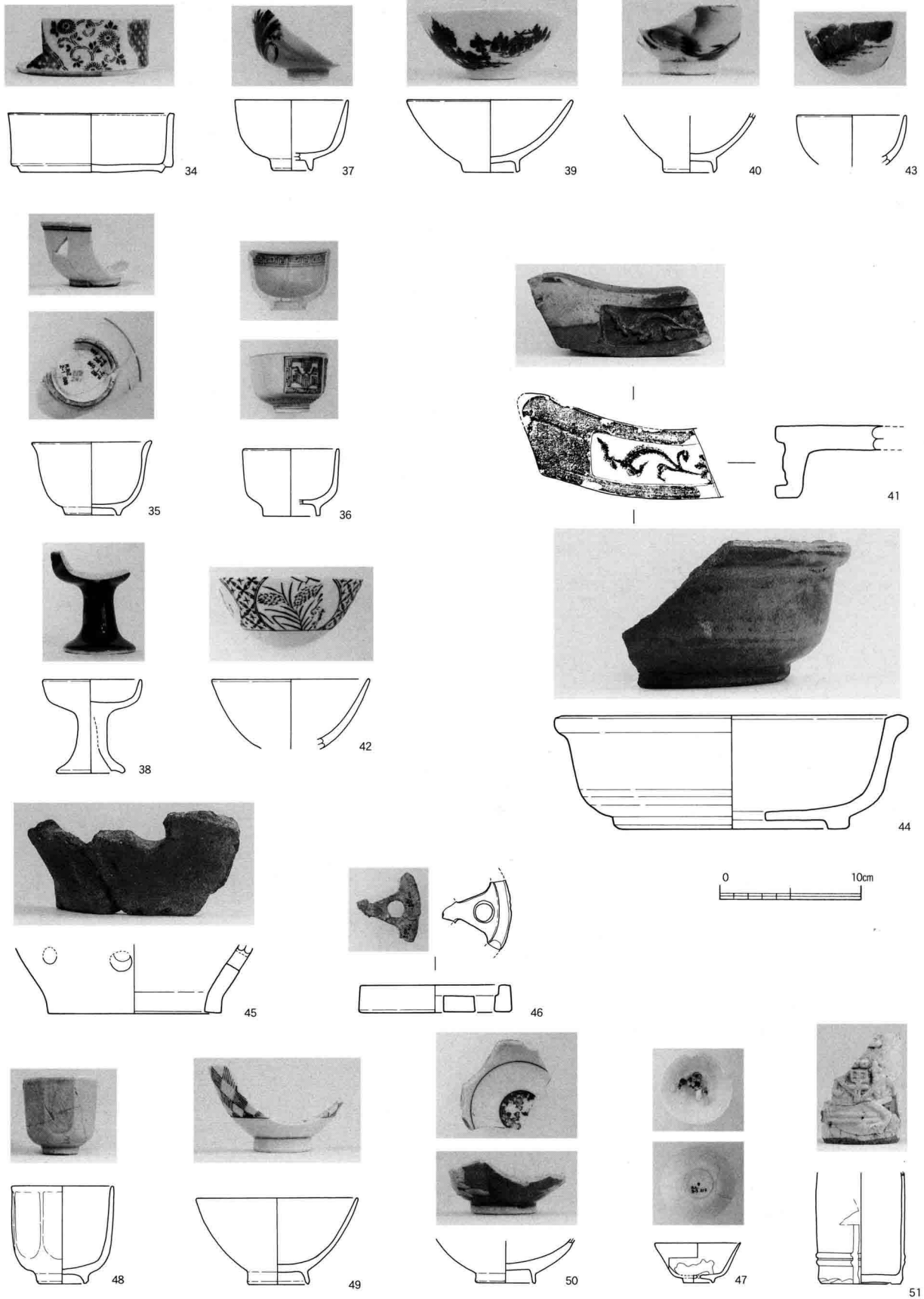
第11図 1次面1号遺構出土陶磁器 (S=1/4)



第12図 1次面1・3号遺構・1次面出土陶磁器 (S=1/4)



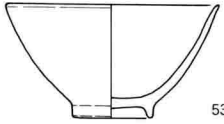
第13图 1次面出土陶磁器・土器 (S=1/4)



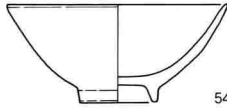
第14図 2次面1・2・3号遺構出土陶磁器・土器・瓦 (S=1/4)



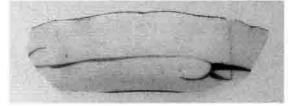
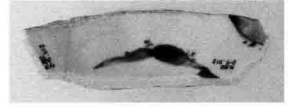
52



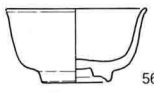
53



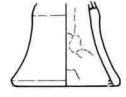
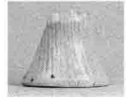
54



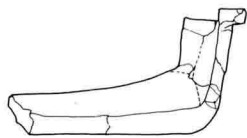
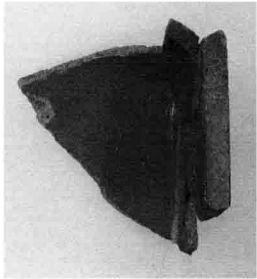
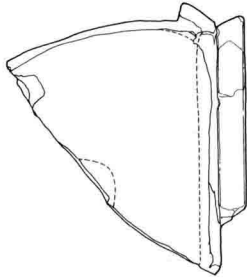
55



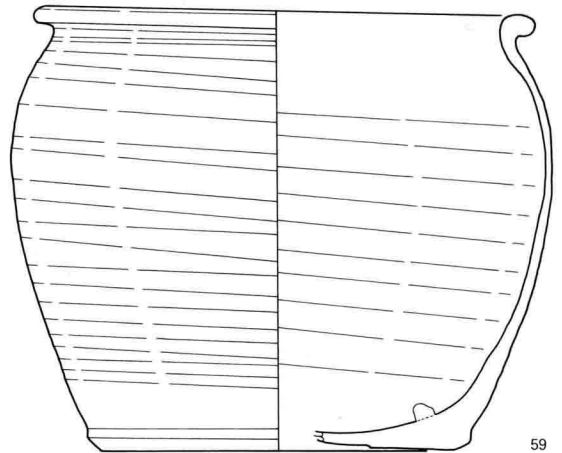
56



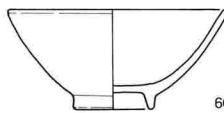
57



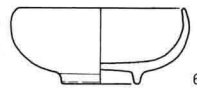
58



59

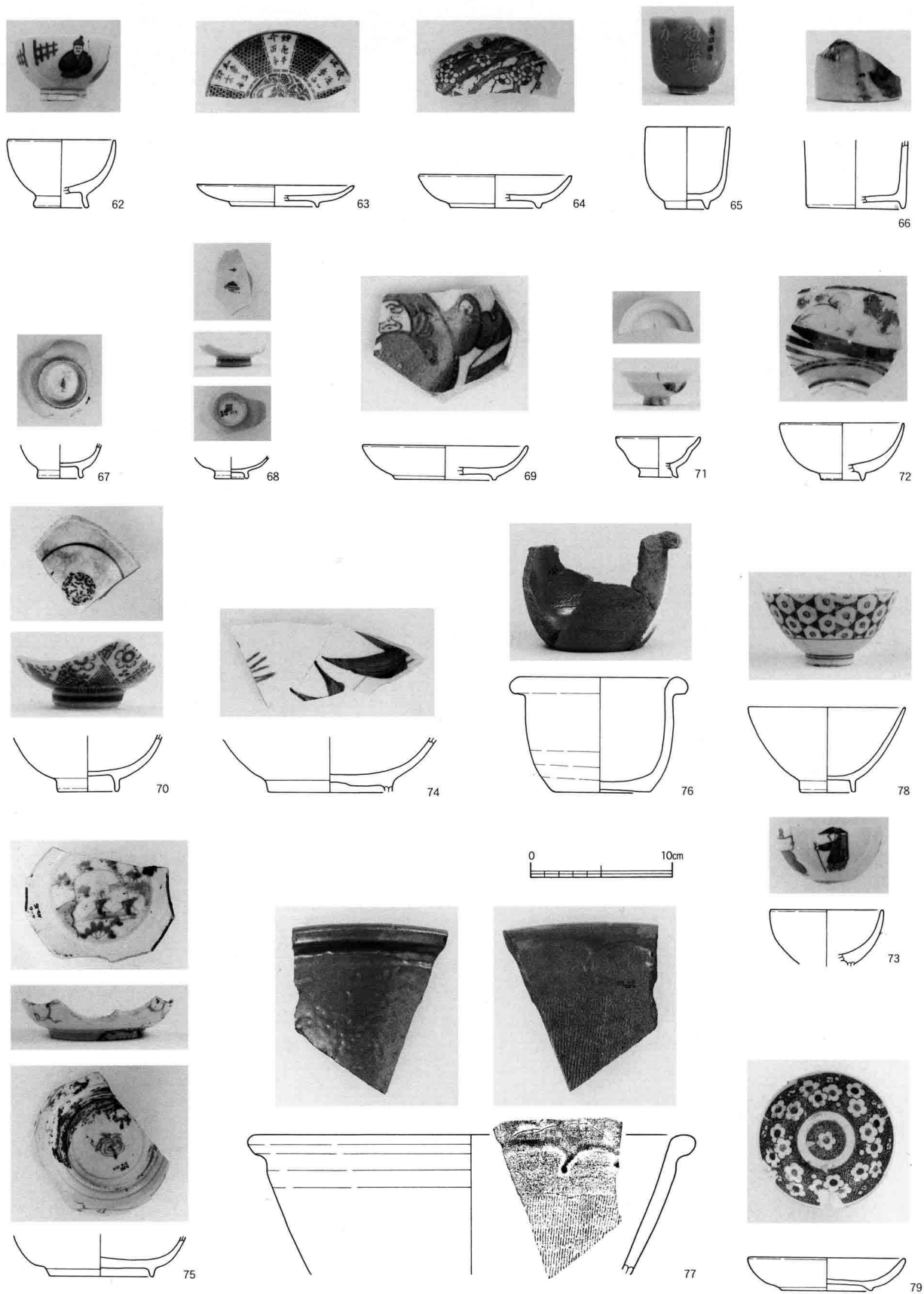


60

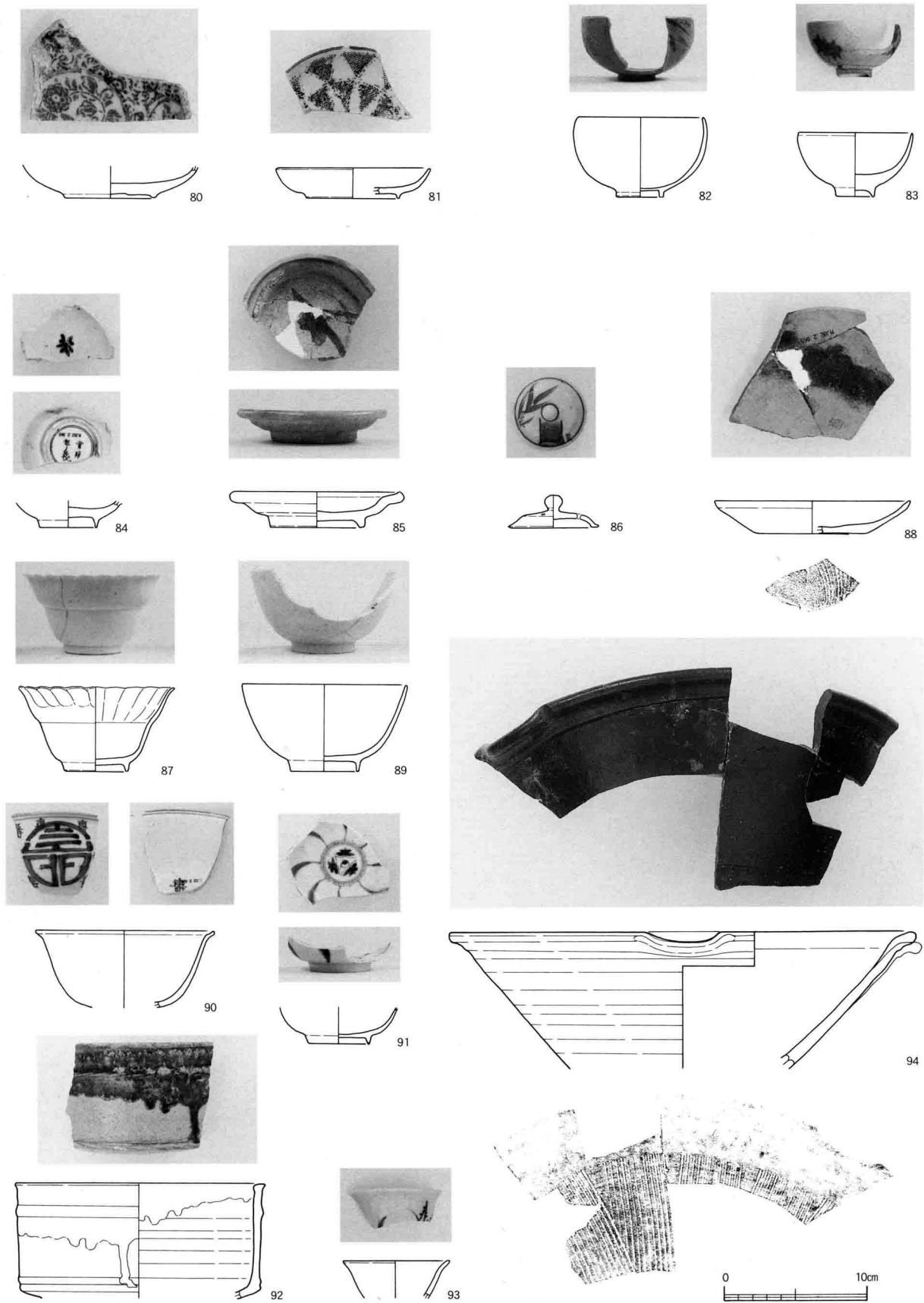


61

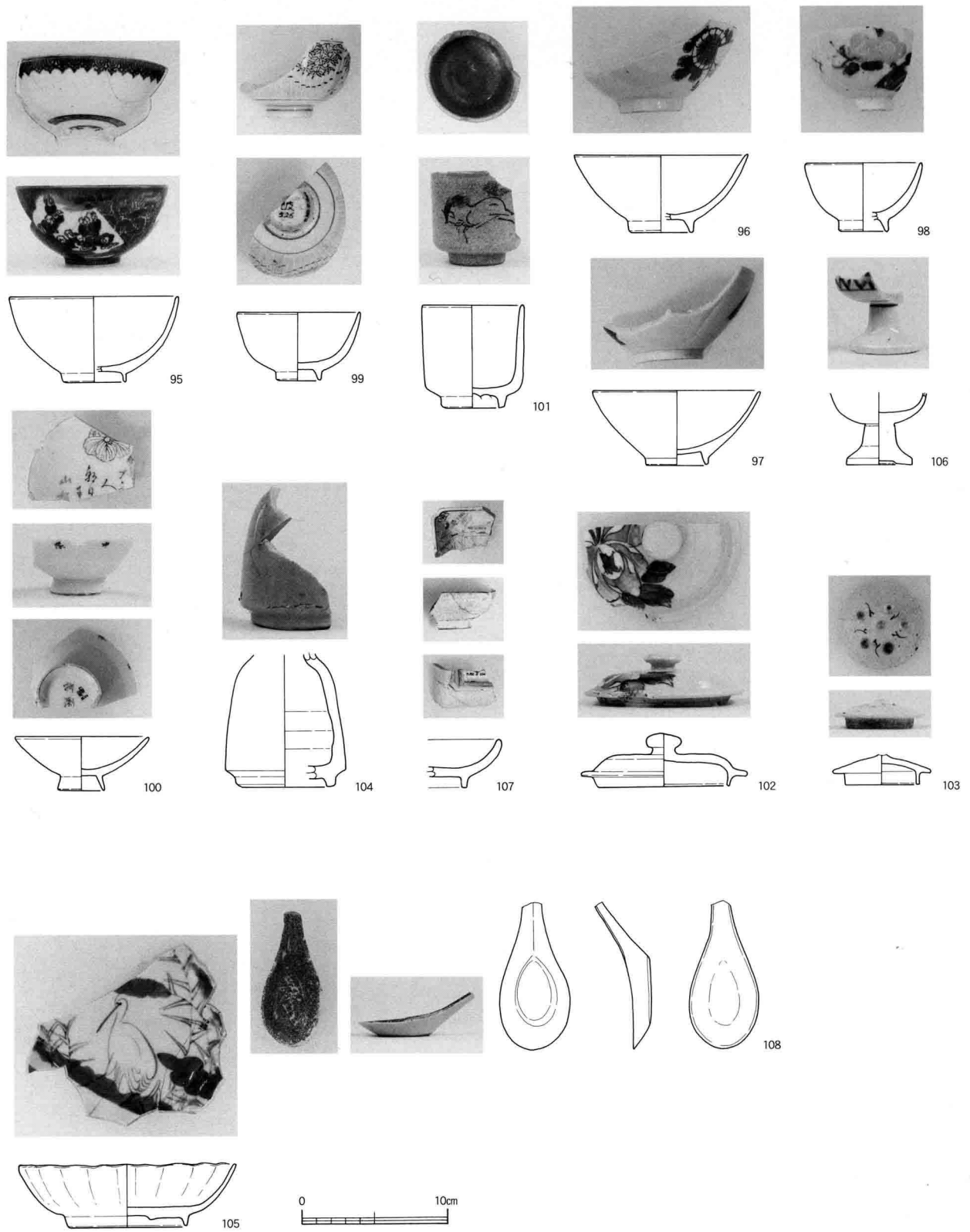
第15図 2次面4・5・6号遺構出土陶磁器 (S=1/4)



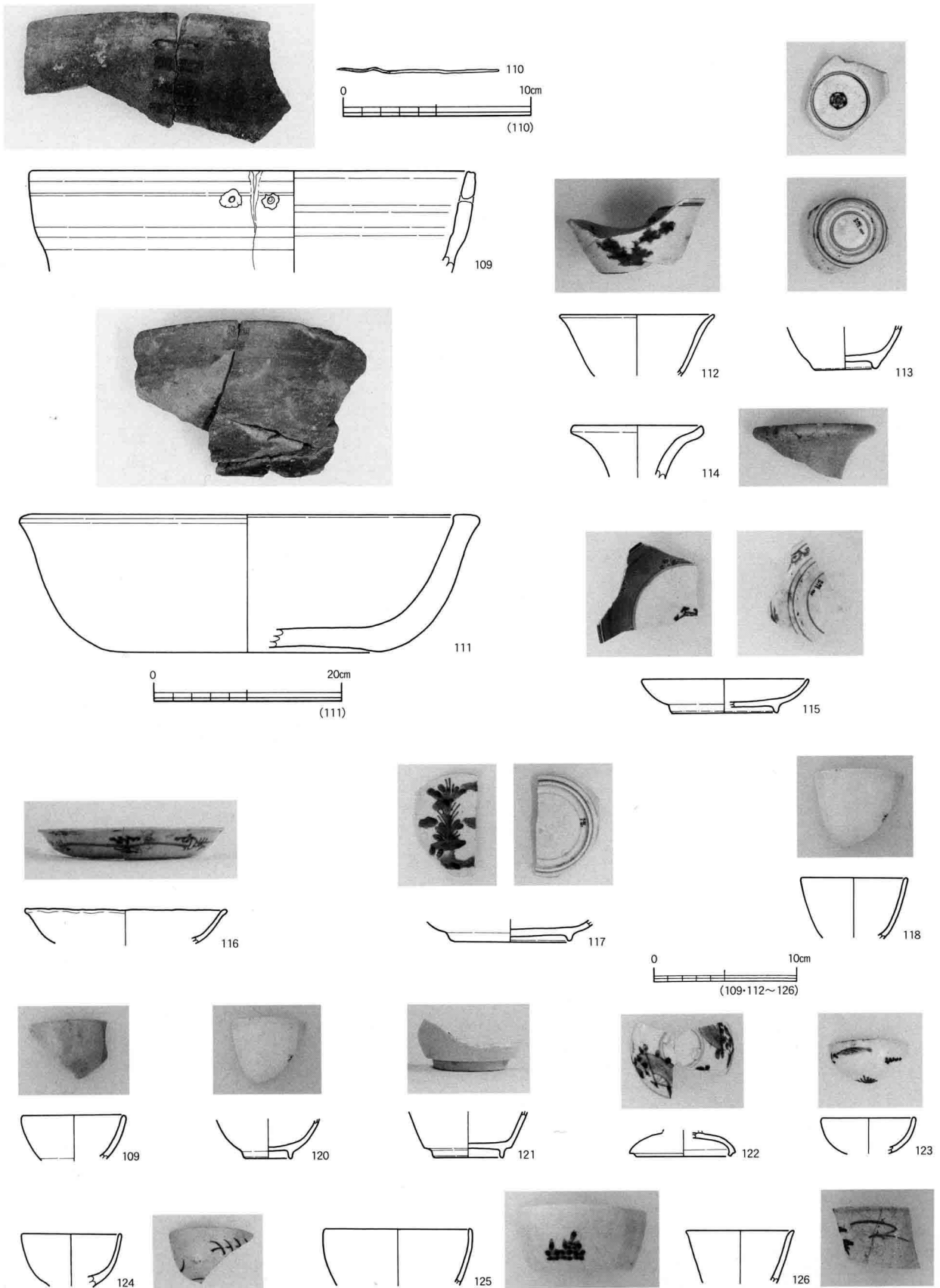
第16图 2次面6号遺構出土陶磁器 (S=1/4)



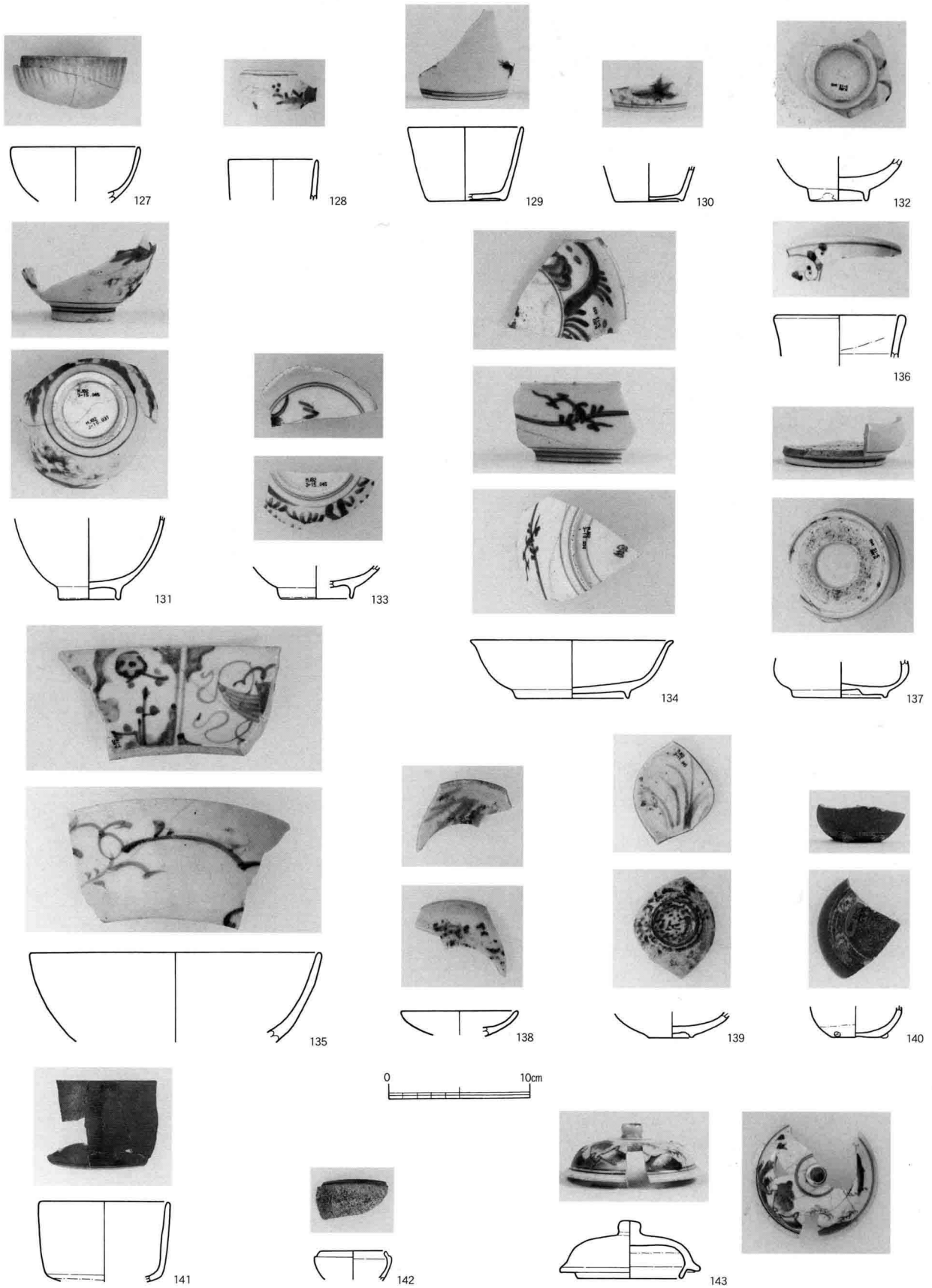
第17図 2次面7・9号遺構・2次面出土陶磁器・土器 (S=1/4)



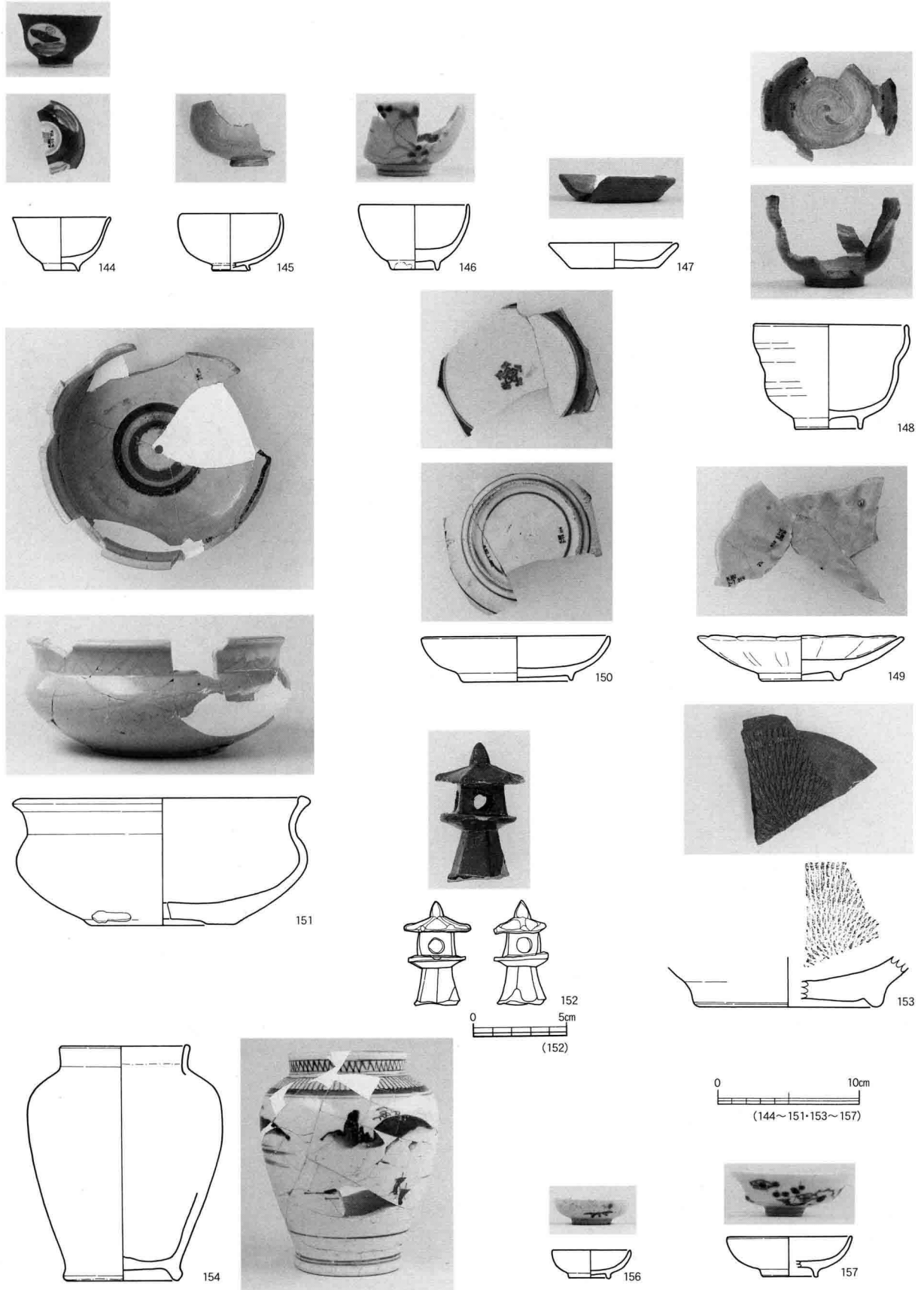
第18図 2次面出土陶磁器 (S=1/4)



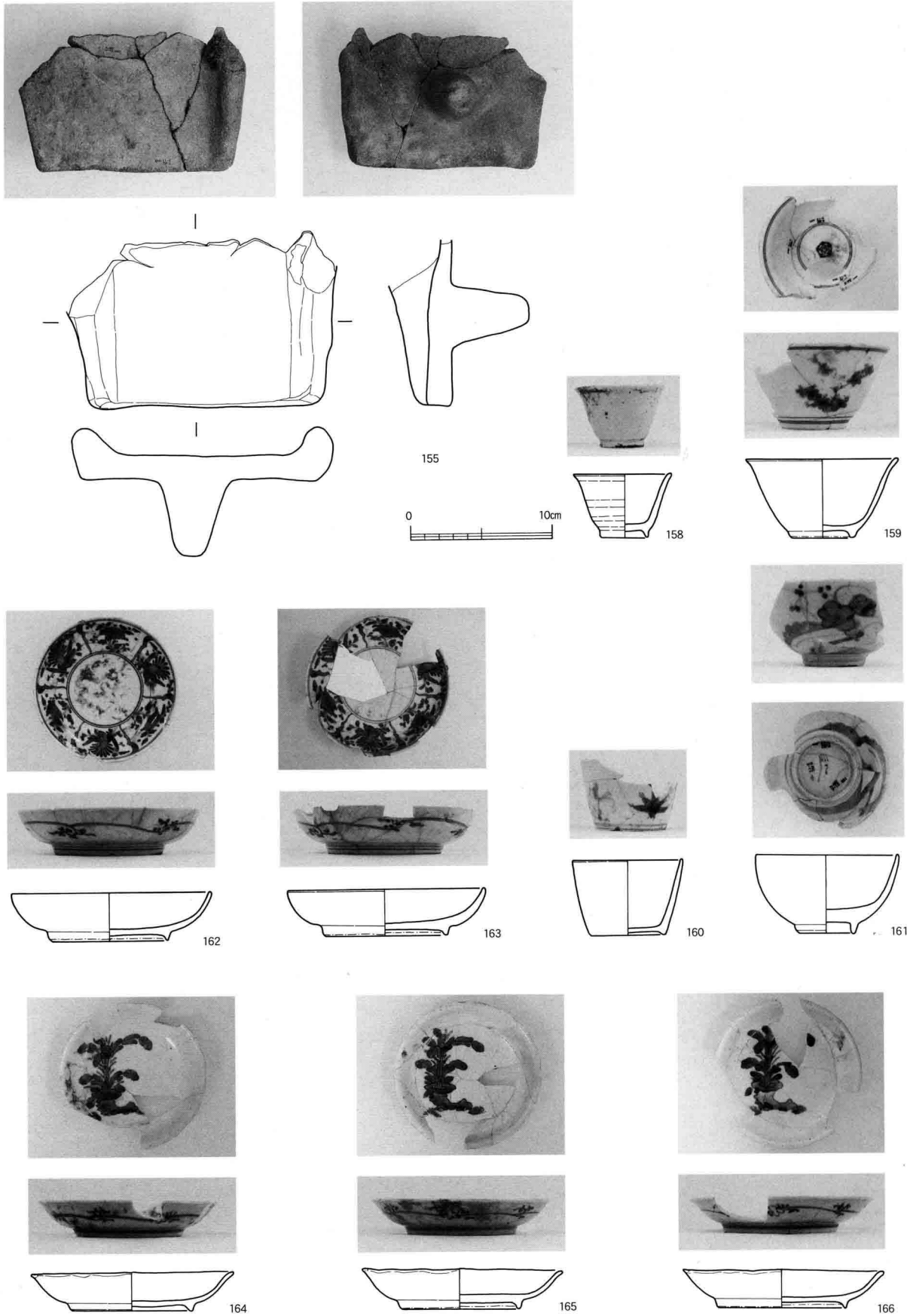
第19図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器 (S=1/3・1/4・1/6)



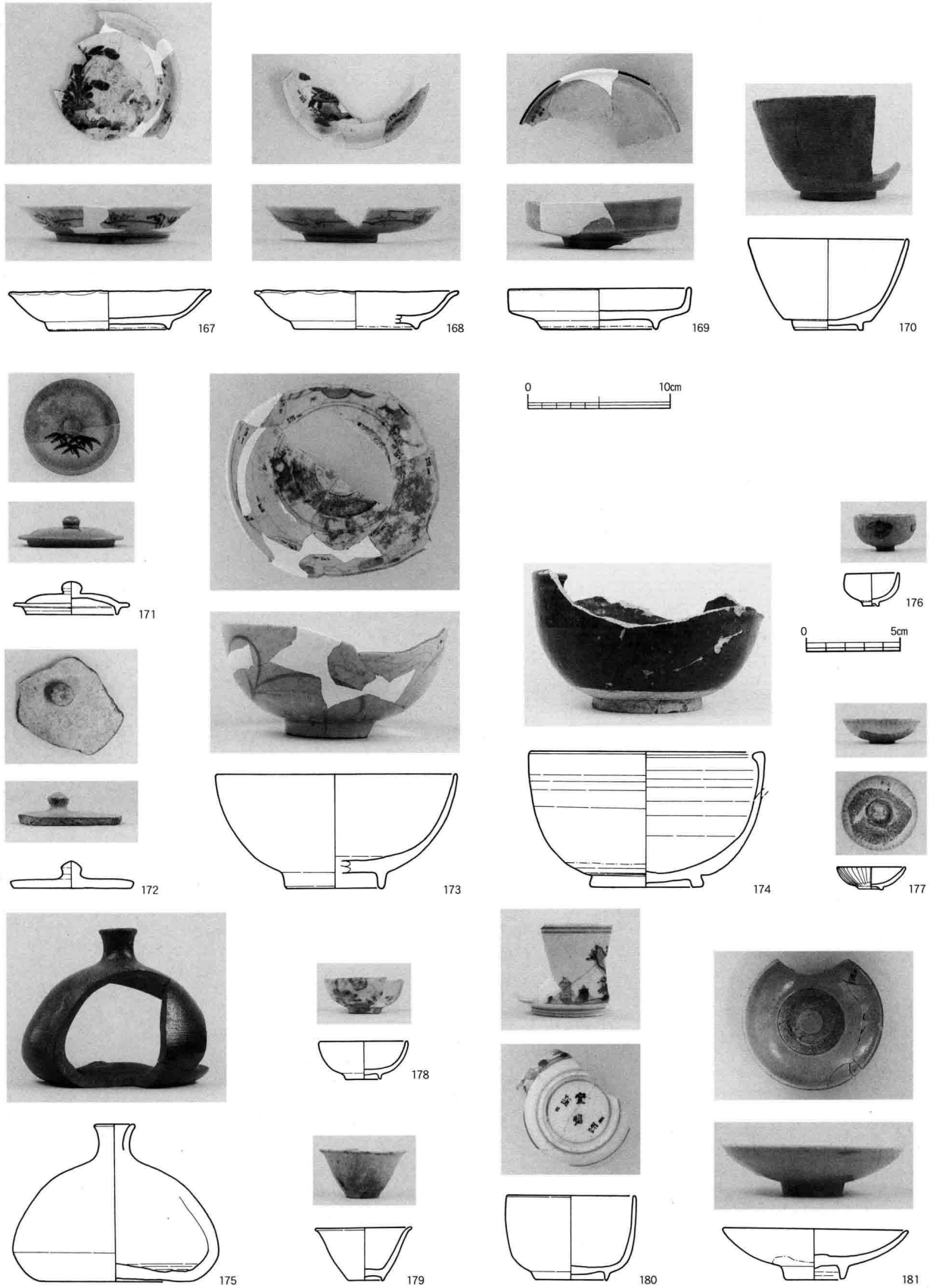
第20図 3次面10号遺構出土陶磁器 (S=1/4)



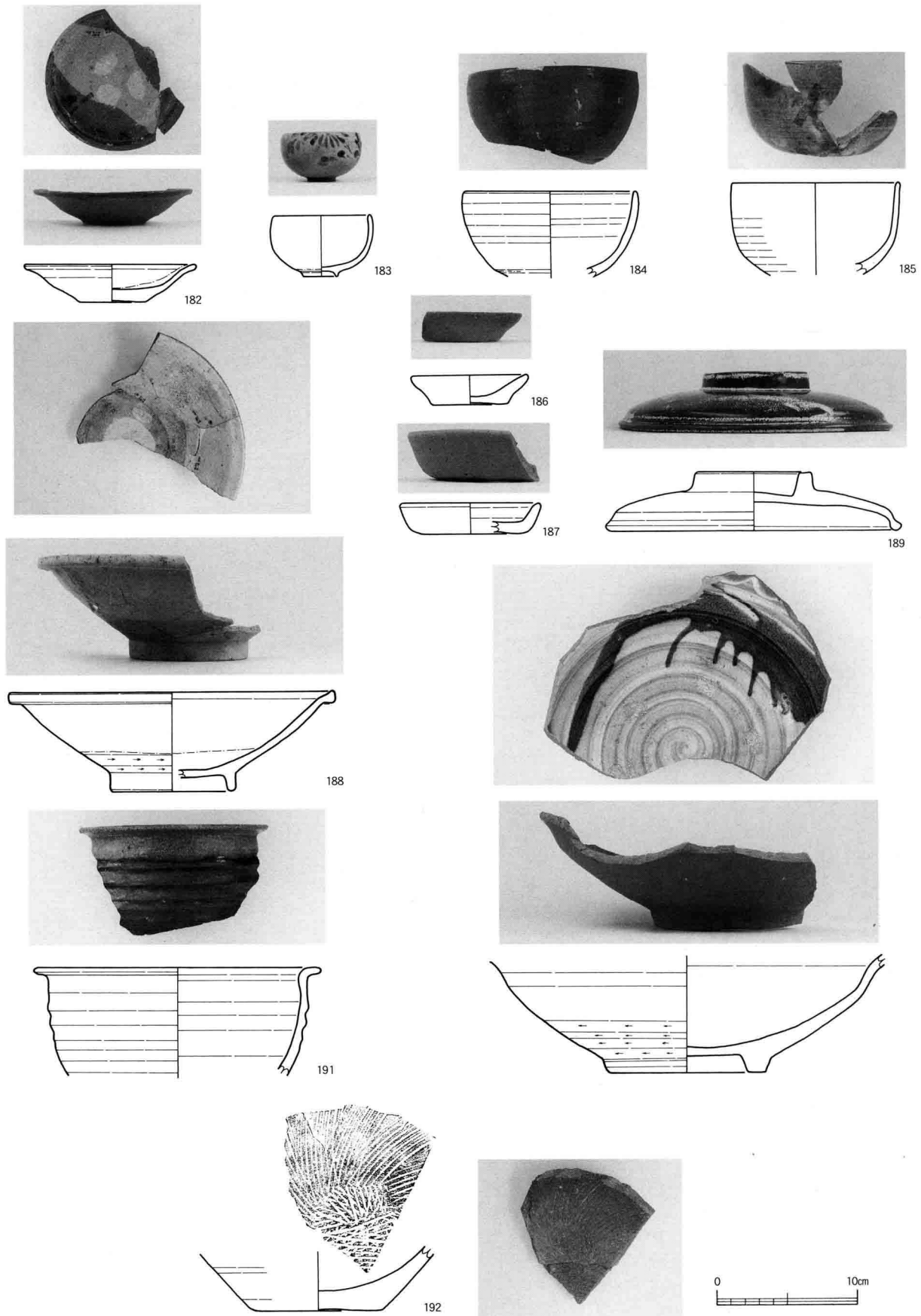
第21図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器・土製品 (S=1/3・1/4)



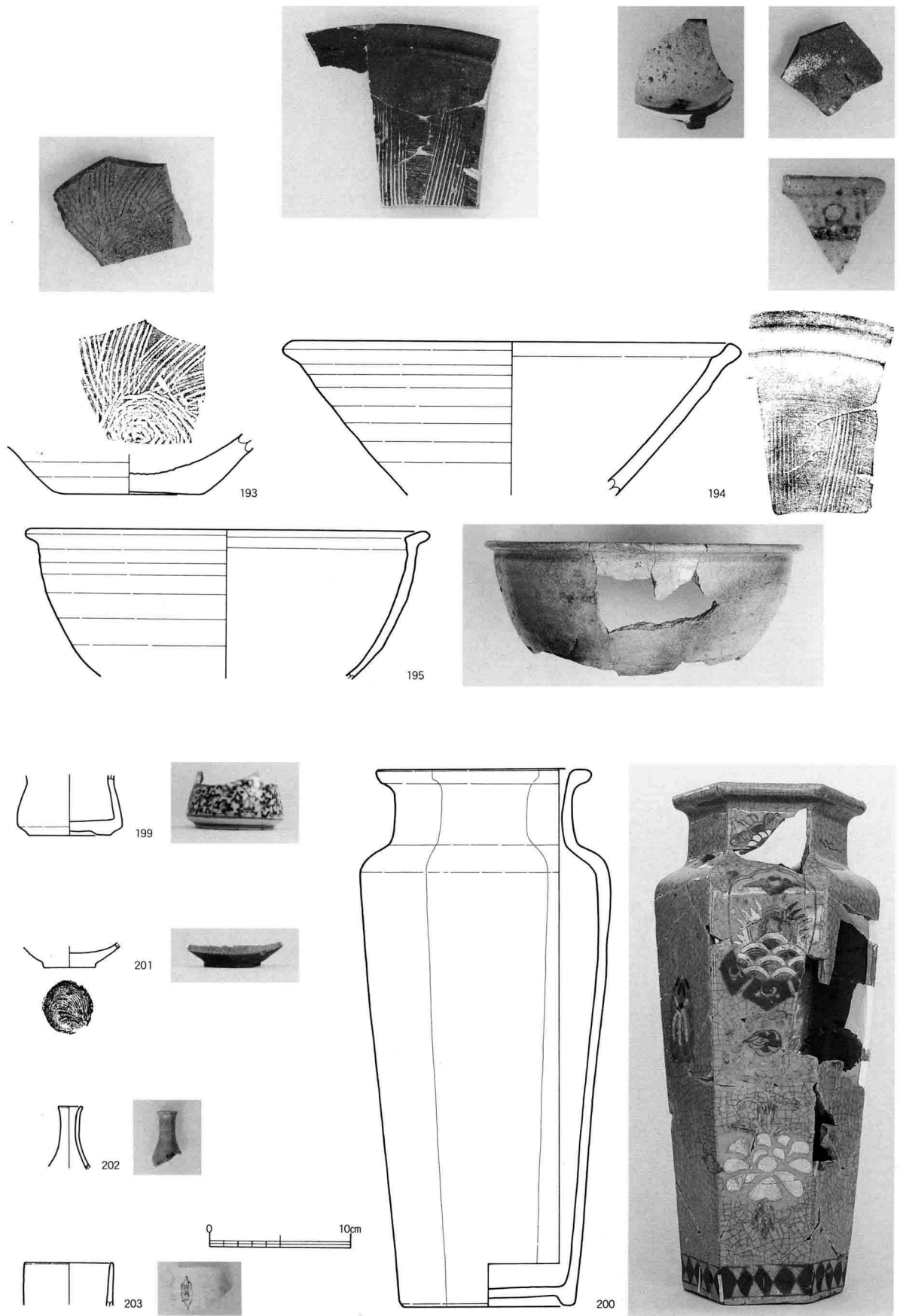
第22図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器 (S=1/4)



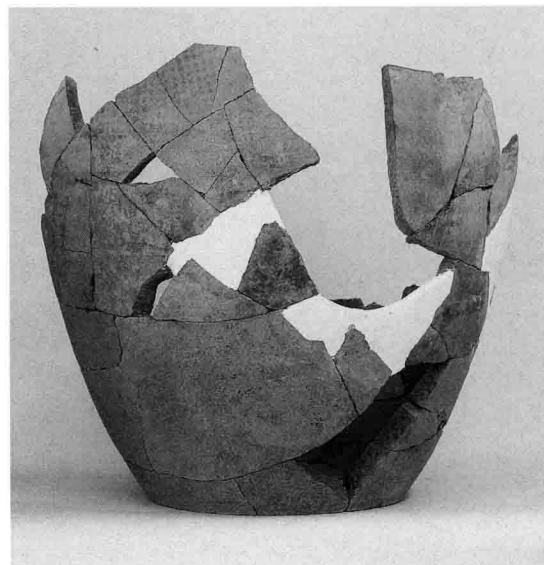
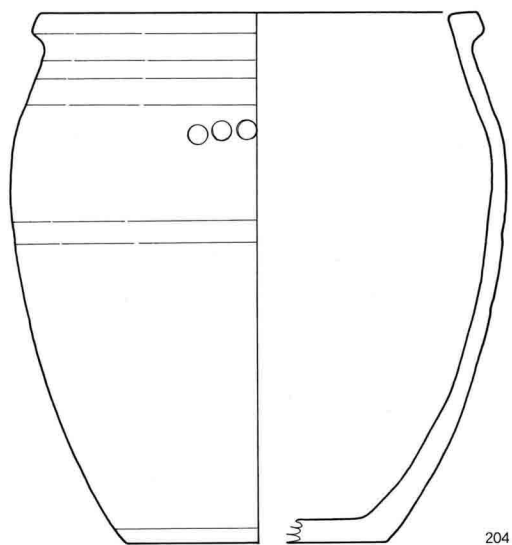
第23図 3次面10号遺構出土陶磁器 (S=1/4)



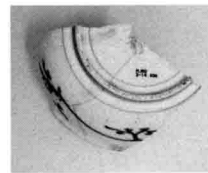
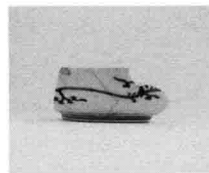
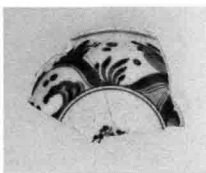
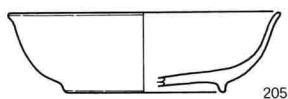
第24図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器 (S=1/4)



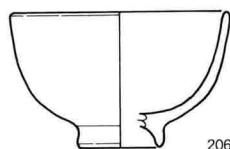
第25図 3次面10・11号遺構出土陶磁器・土器 (S=1/4)



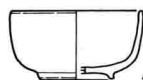
(204)



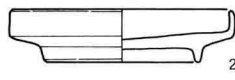
205



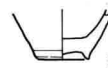
206



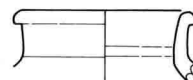
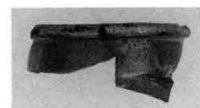
207



208



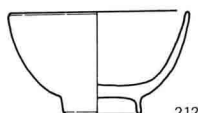
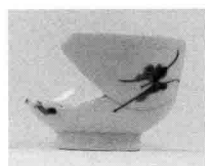
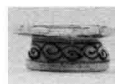
209



211



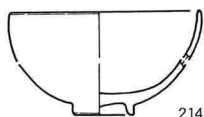
210



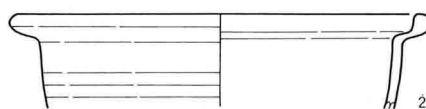
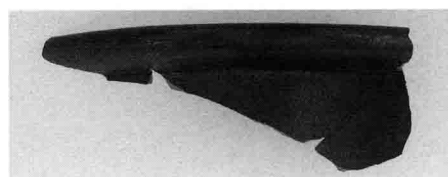
212



213



214



215

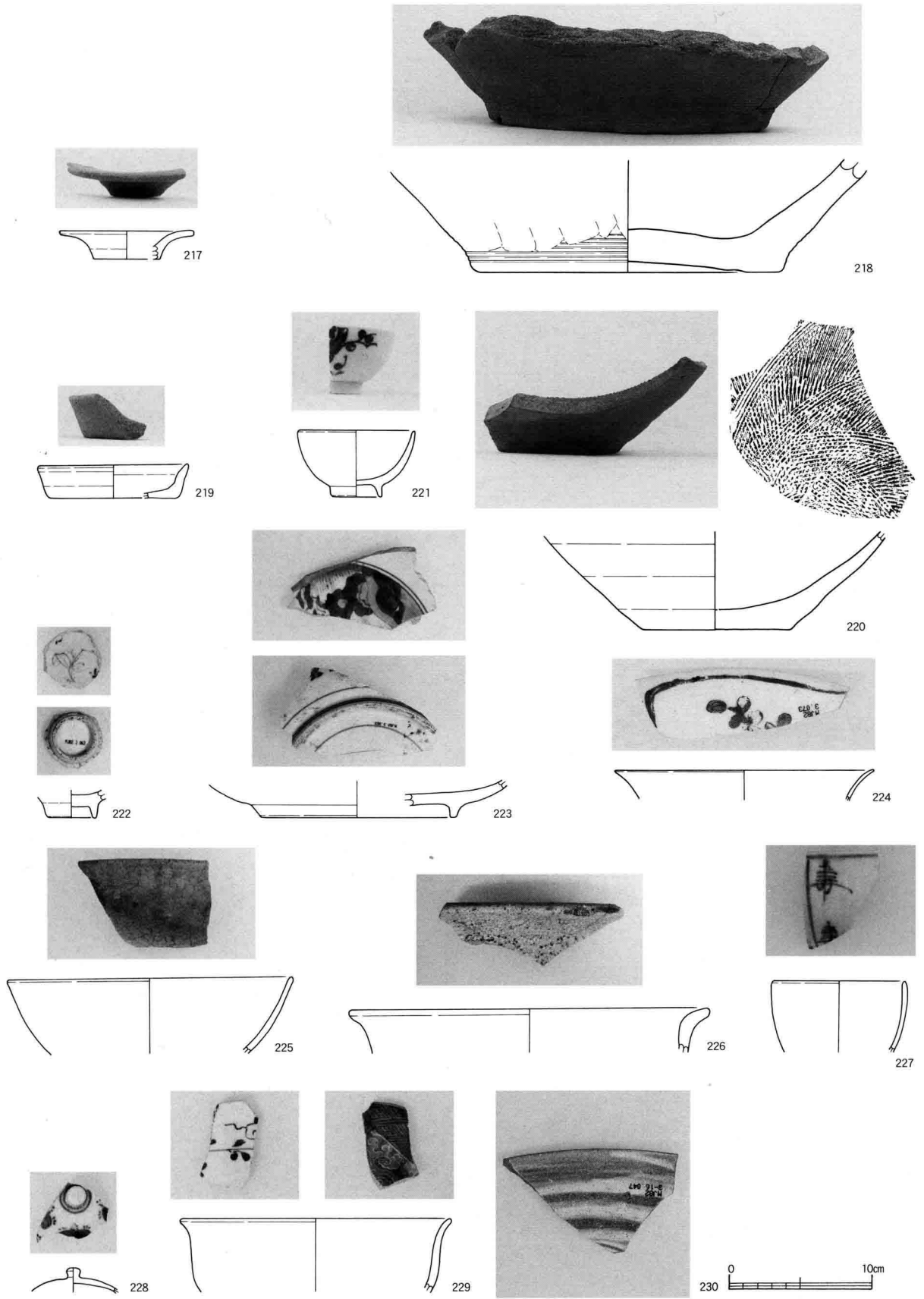


216

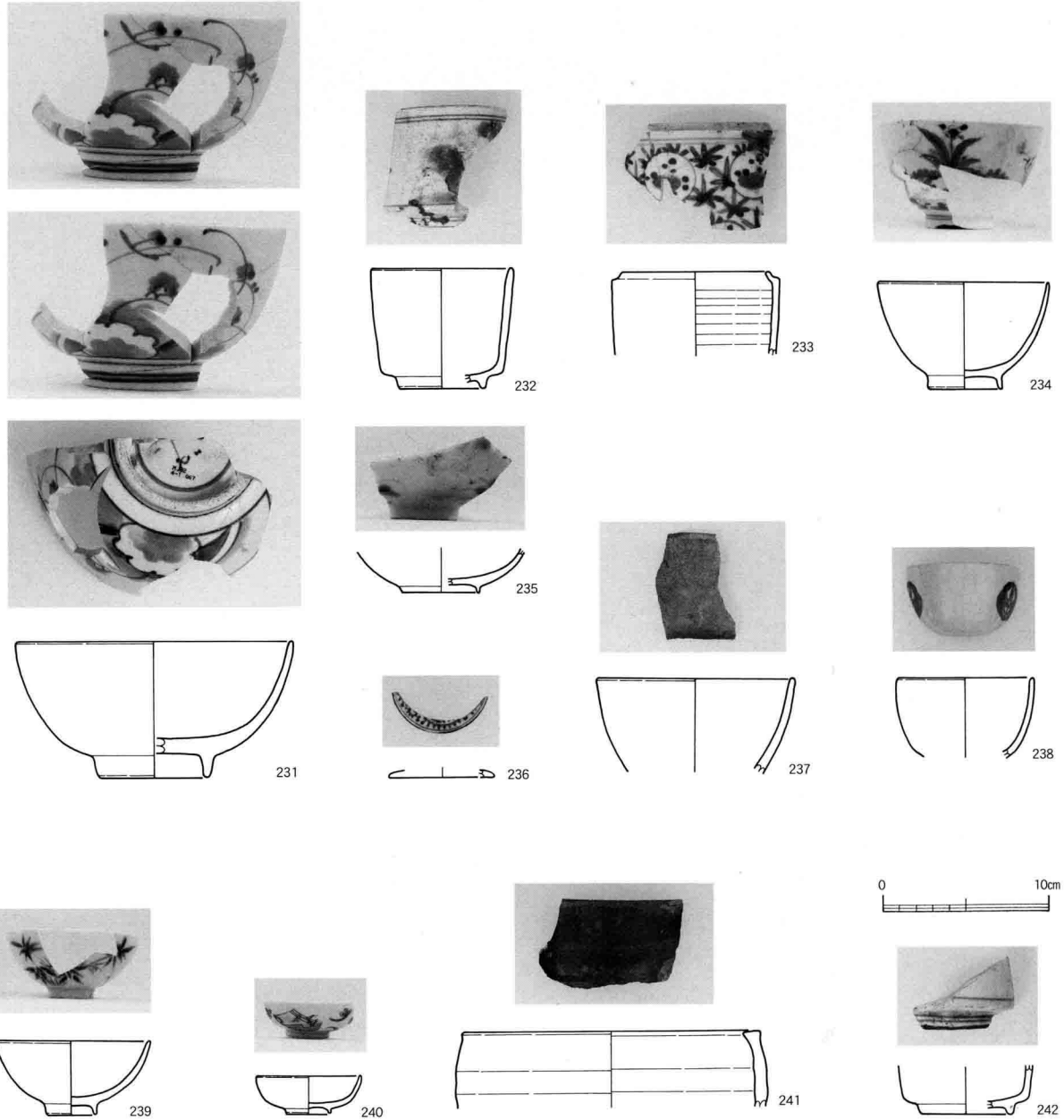


(205~216)

第26图 3次面11・14・16・17号遺構出土陶磁器・土製品 (S=1/4・1/8)



第27図 3次面20・23号遺構出土陶磁器・土製品 (S=1/4)



第28図 4次面1・2・6・24号遺構出土陶磁器 (S=1/4)

松代城下町跡 (M J 82) 出土陶磁器観察表 (1)

図版 番号	出土地点		種別	類別	器種	残存率 全体	調整・文様・その他			備考 推定産地・年代	
	調査面	遺構名					外面	内面	見込		その他
1	1次面	1号遺構	1	2	平丸碗	90%	梅花文	口縁一重圏線	-	高台内刻印あり・底部 渦巻状	近・現代
2	1次面	1号遺構	1	3	平丸碗	40%	金魚・水草・畳付けのみ 茶	-	-	吹絵	現代
3	1次面	1号遺構	1	3	腰張碗	60%	笹・梅・窓枠(染付)	-	-	コバルト	
4	1次面	1号遺構	1	3	盃	80%	-	口縁端部・金	文字あり「蚕種問屋 大岩商店」	底部渦巻状	
5	1次面	1号遺構	1	3	皿	40%	-	菊花文	-	幾何学文様・高台内文字 「...會社...番」	現代
6	1次面	1号遺構	1	3	飯碗	95%	文字あり「ホームラン」	-	-	子供用	現代
7	1次面	1号遺構	1	2	火鉢?	-	鉄釉	一部鉄釉	-	-	松代系
8	1次面	1号遺構	1	3	鉢	-	牡丹文・区画文・雲龍文	-	-	コバルト・蛇の目凹形 高台・高台内文字あり	江戸後期～
9	1次面	1号遺構	1	2	甕(胴丸形)	80%	鉄釉・灰釉流し	鉄釉	-	目跡(8ヶ所)	瀬戸・美濃系
10	1次面	3号遺構	1	3	向付?	70%	-	-	-	-	
11	1次面	検出面	1	3	丸形碗	99%	山水画(人物・鶴・草・ 山)	-	-	高台内刻印あり「吉山」	
12	1次面	検出面	1	3	丸形碗	99%	松鶴文・口縁部一重圏 線	-	-	型紙摺・コバルト・高台 内文字「岐38」	現代
13	1次面	検出面	1	3	丸形碗	70%	兎・草花・月・雲・高 台際二重圏線	-	-	高台一重圏線・銅版転 写	
14	1次面	検出面	1	3	碗?	90%	花	-	-	高台一重圏線	
15	1次面	検出面	1	3	盃	80%	竹・口縁部一重圏線・高 台際一重圏線	-	-	-	
16	1次面	検出面	1	3	皿	30%	-	動物	-	型紙摺・コバルト	
17	1次面	検出面	1	3	皿	50%	-	-	-	型紙摺	明治～
18	1次面	検出面	1	3	皿	30%	-	野菜	-	口紅装飾・銅版転写	明治～
19	1次面	検出面	1	3	皿	25%	-	口縁部一重圏線	風景文(水車・小川・畑)	-	
20	1次面	検出面	1	3	皿	30%	-	-	-	型紙摺	明治～
21	1次面	検出面	1	3	皿	40%	-	花文	花文	銅版転写	明治～
22	1次面	検出面	1	3	皿	40%	-	動物文(燕)	動物文(燕)	銅版転写	明治～
23	1次面	検出面	1	3	向付	70%	葉	牡丹	二重圏線・文字あり「壽」	輪花・コバルト	明治～
24	1次面	検出面	1	3	丸形碗	60%	-	-	-	型紙摺・コバルト	明治～
25	1次面	検出面	1	2	餌猪口	60%	-	-	-	ロクロ成形・灰釉	
26	1次面	検出面	1	3	蓋	60%	-	-	-	型打成形・コバルト	明治～
27	1次面	検出面	1	2	植木鉢(小型)	30%	-	-	-	-	在地系
28	1次面	検出面	1	2	蓋	50%	-	-	-	-	松代系
29	1次面	検出面	1	2	不明	30%	-	-	-	-	蓋?在地系・江戸後期～ 明治
30	1次面	検出面	1	2	乗燭	60%	-	-	-	-	台付たんころ型・在地系
31	1次面	検出面	1	2	乗燭	50%	-	-	-	-	在地系
32	1次面	検出面	1	2	碗	30%	-	-	-	焼成後漆塗布	江戸末期～明治
33	1次面	検出面	1	2	皿	-	-	-	-	手びねり	肥前系・絵唐津・江戸初 期?
34	2次面	1号遺構	1	4	段重	35%	型紙摺・菊文(緑)・花文 (紺)	-	-	-	明治～
35	2次面	1号遺構	1	3	湯飲碗	30%	口縁二重圏線	-	-	高台内文字あり「岐241」	現代
36	2次面	1号遺構	1	3	湯飲碗	30%	雷文・幾何学文・連文	口縁部雷文	-	-	
37	2次面	1号遺構	1	3	湯飲碗	-	ススキに露	-	-	黄瀬戸釉	
38	2次面	1号遺構	1	3	仏飯器	40%	呉須	透明釉	-	-	瀬戸・美濃系
39	2次面	1号遺構	1	3	平丸碗	90%	風景文	-	-	コバルト・銅版転写	明治～
40	2次面	1号遺構	1	3	碗	50%	鶴	-	-	コバルト・吹絵	明治～
41	2次面	1号遺構	1	5	軒平瓦	-	唐草文	-	-	文字あり「上タ?」	
42	2次面	1号遺構	1	3	平丸碗	40%	型紙摺・丸文の中に麦・ 星・花	-	-	-	
43	2次面	1号遺構	1	3	湯飲碗	25%	コバルト・銅版転写・岩・ 木	-	-	-	明治～
44	2次面	2号遺構	1	2	植木鉢	25%	-	-	-	-	
45	2次面	3号遺構	1	2	不明(火客? 焜炉?)	-	-	ナデ・煤付着	-	無釉	在地系?
46	2次面	3号遺構	1	2	目皿?	16%	-	-	-	無釉	
47	2次面	3号遺構	1	3	盃	95%	-	蝸牛文	-	底部穿孔(成形時)	瀬戸・美濃系・江戸末期 ～明治?
48	2次面	3号遺構	1	3	筒形碗	70%	紗綾形文	-	-	青磁釉	明治～
49	2次面	3号遺構	1	3	平丸碗	30%	市松文様・高台際二重 圏線	-	-	コバルト	明治～
50	2次面	3号遺構	1	3	平丸碗	15%	松竹文	-	松梅文	高台内一重圏線・コバ ルト・型紙摺	明治～
51	2次面	3号遺構	1	3	德利	-	鏝「戦」陽刻	-	-	無釉・焼成後彩色(赤)・ 型打成形	大正～?
52	2次面	4号遺構	1	4	盃	60%	草花文	-	-	色絵(緑・茶)	端反形
53	2次面	5号遺構	1	3	平丸碗	70%	陰刻圏線(10本)	-	-	-	瀬戸・美濃系?
54	2次面	5号遺構	1	4	平丸碗	60%	桐・菊	-	-	色絵(緑・藍)・型紙摺	明治～
55	2次面	5号遺構	1	3	なます皿	20%	口縁部輪花・口紅装飾 (茶)唐草文	山水文	-	呉須	
56	2次面	5号遺構	1	3	湯飲碗	45%	鳥・木・人物・口縁部一 重圏線・高台際二重圏 線	-	-	コバルト・銅版転写・蛇 の目凹形高台	明治～
57	2次面	5号遺構	1	3	水滴?	-	竹形・青磁釉	指ナデ・無釉	-	-	瀬戸・美濃系
58	2次面	5号遺構	1	2	繰糸鍋	-	無釉	黄褐色透明釉	-	-	在地系
59	2次面	検出面	1	2	甕(胴丸形)	60%	鉄釉・灰釉流し	鉄釉	-	目跡あり(8ヶ所・胎土 目積み)	瀬戸・美濃系
60	2次面	6号遺構	1	3	平丸形碗	30%	草葉文	-	-	-	
61	2次面	6号遺構	1	3	鉢	30%	花文	花文	-	-	
62	2次面	6号遺構	1	3	丸形碗	30%	人物・垣根	-	-	-	
63	2次面	6号遺構	1	3	皿	40%	-	-	-	型紙摺	明治～
64	2次面	6号遺構	1	3	皿	30%	-	梅文	梅文	-	

松代城下町跡 (M J 82) 出土陶磁器観察表 (2)

図版 番号	出土地点		種別	類別	器種	残存率 全体	調整・文様・その他				備考 推定産地・年代
	調査面	遺構名					外面	内面	見込	その他	
65	2次面	6号遺構	1	3	筒形碗	90%	文字陽刻・文字あり [鳥田商店]	-	-	-	明治～
66	2次面	6号遺構	1	3	向付	20%	-	-	-	-	
67	2次面	6号遺構	1	2	盃	30%	-	-	-	高台内文字あり「壽山」	
68	2次面	6号遺構	1	3	盃	20%	-	-	魚文	-	
69	2次面	6号遺構	1	3	皿	20%	-	達磨	-	銅版転写	明治～
70	2次面	6号遺構	1	3	碗	20%	-	-	松竹文	型紙摺・コバルト	明治～
71	2次面	6号遺構	1	3	盃	40%	松	-	-	-	
72	2次面	6号遺構	1	3	丸形碗	15%	-	-	-	-	
73	2次面	6号遺構	1	3	丸形碗	30%	人物・高台際一重圏線	-	-	-	
74	2次面	6号遺構	1	3	中皿	10%	高台際二重圏線	葉	葉	-	肥前系
75	2次面	6号遺構	1	3	中皿	40%	唐草文	-	山水文	高台内文字あり「禍福」	肥前系
76	2次面	6号遺構	1	2	甕	60%	-	-	-	-	
77	2次面	6号遺構	1	2	播鉢	10%	-	放射掃り目	-	-	
78	2次面	6号遺構	1	3	碗	70%	高台際二重圏線	-	-	型紙摺	明治～
79	2次面	6号遺構	1	3	皿	90%	-	梅文	-	型紙摺	明治～
80	2次面	7号遺構	1	3	なます皿?	20%	-	草花文	-	蛇の目凹形高台・呉須? 型紙摺	明治～
81	2次面	7号遺構	1	3	皿	20%	-	三角文	-	コバルト・型紙摺	明治～
82	2次面	9号遺構	1	4	碗	50%	笹	-	-	色絵(赤・金?)	
83	2次面	9号遺構	1	3	碗	50%	葉?高台際二重圏線	-	-	呉須	
84	2次面	側溝 Tr	1	3	碗	-	-	-	五弁花文	呉須・高台内二重圏線・ 「宣明年製」	肥前系・1650～1690年 代
85	2次面	側溝 Tr	1	4	皿	50%	無軸	口縁部重ね焼痕	文字あり	-	
86	2次面	側溝 Tr	1	3	丸形蓋	100%	ツマミ際二重圏線・口 縁一重圏線・竹文	-	-	コバルト・球形ツマミ・ 穿孔あり(1ヶ所)	
87	2次面	側溝 Tr	1	3	向付?	60%	口縁部輪花	-	-	型打成形	
88	2次面	側溝 Tr	1	1	灯明皿	25%	煤付着	煤付着	-	底部糸切り痕	
89	2次面	側溝 Tr	1	3	丸形碗	50%	-	-	-	白磁?	
90	2次面	側溝 Tr	1	3	端反形碗	20%	「寿」字文(大小)・口縁 部二重圏線	口縁折縁形?・二重圏線	「寿」字文	呉須	
91	2次面	側溝 Tr	1	3	碗	-	ねじり文	ねじり文	二重円内に縹	呉須	
92	2次面	側溝 Tr	1	2	香炉?	15%	竹製タガの文様(3ヶ所)	-	-	暗緑灰色透明釉	在地系?
93	2次面	側溝 Tr	1	3	端反形盃	30%	草花文	-	-	呉須	
94	2次面	側溝 Tr	1	2	播鉢	20%	-	放射掃り目重複	-	鉄釉	瀬戸・美濃系
95	2次面	検出面	1	3	丸形碗	45%	かのこ文に花・唐風人 物・高台際一重圏線・櫛 目文	口縁部環珞文	松竹梅文	コバルト・型紙摺	明治～
96	2次面	検出面	1	4	平丸形碗	35%	菊花文・扇形窓内に風 景文	-	-	色絵(コバルト・緑)・銅 版転写	明治～
97	2次面	検出面	1	4	平丸形碗	25%	葉	-	-	色絵(深緑)・銅版転写	明治～
98	2次面	検出面	1	4	丸形碗	25%	梅花文	-	-	色絵(コバルト・ピンク)・ 銅版転写	明治～
99	2次面	検出面	1	3	丸形碗	30%	櫛目地に笹・口縁・腰部 一重圏線・高台際二重 圏線	-	-	高台内文字あり「岐ナ2 6」・コバルト	明治～・美濃系
100	2次面	検出面	1	3	盃	35%	文字「中隊」	口紅装飾(金)・桐葉文・ 文字あり、短歌?	-	高台内文字あり「杵淵」	大正～
101	2次面	検出面	1	4	筒形碗	65%	馬	-	馬	色絵	
102	2次面	検出面	1	3	端反形蓋	55%	牡丹?	-	-	丸ツマミ・コバルト	
c	2次面	検出面	1	2	山蓋	95%	枝?	-	-	透明釉	
104	2次面	検出面	1	3	瓶(尾呂徳 利形)	-	貫入	-	-	青磁釉	瀬戸・美濃系
105	2次面	検出面	1	3	なます皿	50%	-	鳥(鶴?)に葦	-	呉須?・輪花・蛇の目凹 形高台	
106	2次面	検出面	1	3	仏飯器(馬 上盃)	60%	坏部腰二重圏線・網目 文・高台際一重圏線	-	-	呉須・台底輪高台・底部 削り出し	
107	2次面	検出面	1	4	手塩皿	-	花葉文	口縁一重圏線	二重圏線	色絵	
108	2次面	検出面	1	3	散り蓮華	80%	-	唐草文・紅葉形・花唐草 他	-	型打成形・コバルト・銅 版転写	明治～
109	3次面	10号遺構	1	1	焙烙	-	-	-	-	-	補修痕(穿孔・2ヶ所) あり
110	3次面	10号遺構	3	-	針金(焙烙 付属)	100%	-	-	-	先端加工	焙烙に付属。補修材と して使用か
111	3次面	10号遺構	1	1	こね鉢	30%	ヨコヘラミガキ	ヨコヘラミガキ	-	底部ケズリ	
112	3次面	10号遺構	1	3	端反形碗	70%	松文・口縁二重圏線	二重圏線	-	-	
113	3次面	10号遺構	1	3	端反形碗	20%	松文	-	二重圏線内五弁花文	高台内二重圏線・呉須	
114	3次面	10号遺構	1	3	花生(盤口形)	-	-	-	-	青磁釉・無文	
115	3次面	10号遺構	1	3	皿	25%	唐草文	白抜き花文・墨弾き	五弁花文	呉須・口紅装飾	
116	3次面	10号遺構	1	3	皿	20%	唐草文	花文	-	呉須・口縁部輪花・高台 内一重圏線	164～168と同遺物
117	3次面	10号遺構	1	3	皿	30%	口縁部二重圏線	-	花文?	呉須・高台内一重圏線	
118	3次面	10号遺構	1	3	丸形碗	20%	-	-	-	透明釉・無文	
119	3次面	10号遺構	1	3	丸形碗	20%	-	-	-	透明釉・無文	
120	3次面	10号遺構	1	3	丸形碗	20%	胴部草・高台脇櫛目・高 台二重圏線	-	-	呉須	
121	3次面	10号遺構	1	3	端反形碗	20%	-	-	-	透明釉・無文	
122	3次面	10号遺構	1	3	蓋	25%	扇・草	-	-	呉須	
123	3次面	10号遺構	1	3	盃	20%	松文	-	-	呉須	
124	3次面	10号遺構	1	3	丸形碗	20%	鳥・草・口縁部一重圏線	-	-	呉須・湯飲碗	
125	3次面	10号遺構	1	3	丸形碗	20%	萩?	-	-	呉須	
126	3次面	10号遺構	1	3	端反形碗	20%	草	-	-	呉須	
127	3次面	10号遺構	1	3	丸形碗	30%	雨降り文	舟?	-	呉須	
128	3次面	10号遺構	1	3	猪口	15%	草花文・口縁部一重圏 線	-	-	呉須	筒形・蕎麦猪口
129	3次面	10号遺構	1	3	猪口	25%	松文・口縁部二重圏線	-	-	呉須	蕎麦猪口

松代城下町跡 (M J 82) 出土陶磁器観察表 (3)

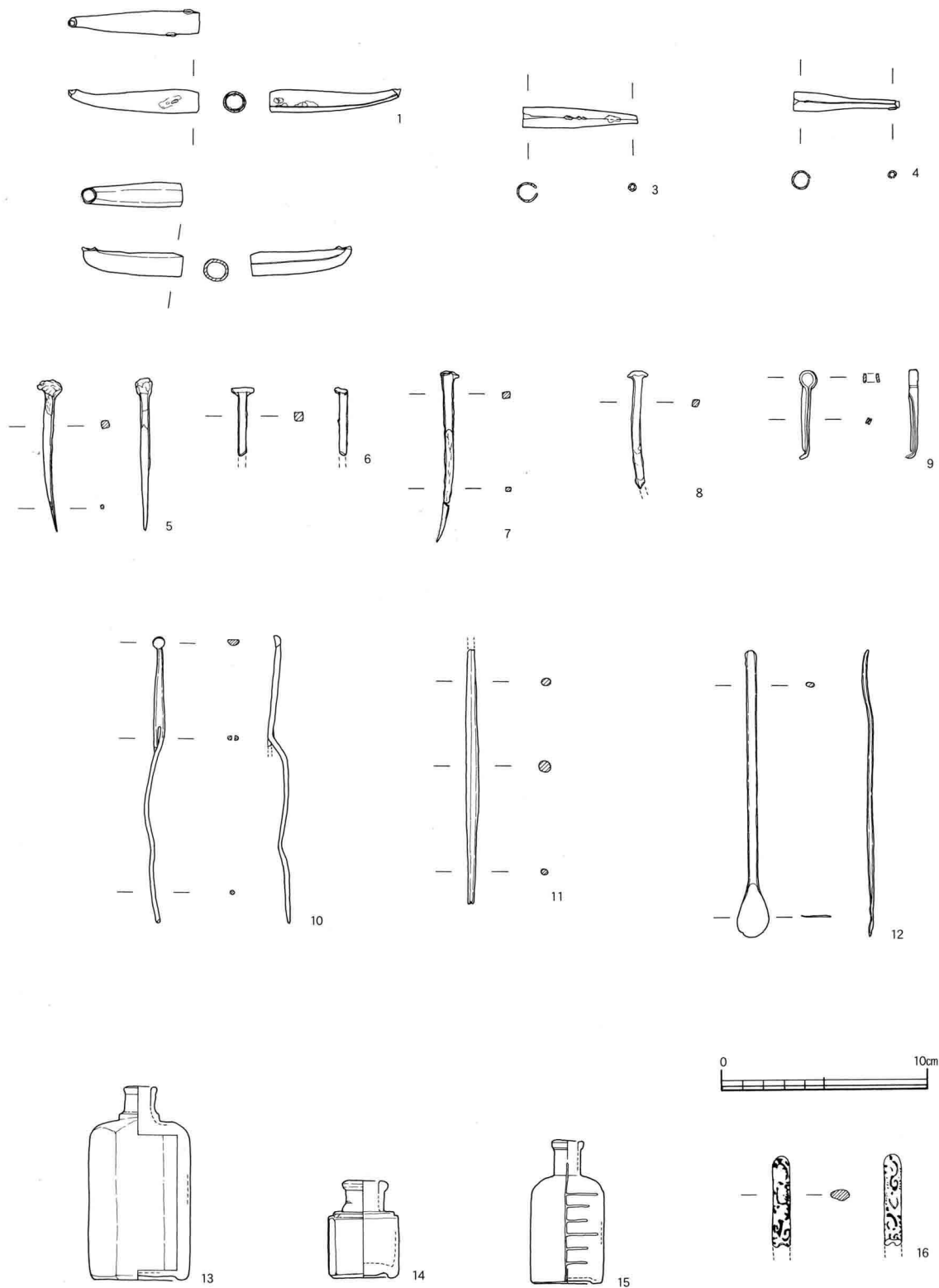
図版番号	出土地点		種別	類別	器種	残存率 全体	調整・文様・その他				備考 推定産地・年代	
	調査面	遺構名					外面	内面	見込	その他		
130	3次面	10号遺構	1	3	猪口	20%	松文・口縁部二重圏線	-	-	-	呉須	蕎麦猪口
131	3次面	10号遺構	1	3	丸形碗	30%	草花文	-	-	-	呉須・高台内・二重圏線	
132	3次面	10号遺構	1	3	丸形碗	20%	草花文	-	-	-	呉須・高台内印	くらわんか手・肥前系
133	3次面	10号遺構	1	3	丸形碗	13%	笹文	-	-	-	二重圏線内笹文 呉須	
134	3次面	10号遺構	1	3	皿	13%	唐草文	波文	-	五弁花文	呉須・高台内「富貴長春」	
135	3次面	10号遺構	1	3	鉢	20%	唐草文	風景文	-	-	呉須	
136	3次面	10号遺構	1	3	灰吹?	-	唐草文・口縁部一重圏線	無釉	-	-	呉須	灰落とし?
137	3次面	10号遺構	1	3	灰吹?	-	唐草文・口縁部一重圏線	無釉	-	-	呉須・蛇の目凹形高台	
138	3次面	10号遺構	1	3	手塩皿	15%	器面凹凸	草文	-	-	呉須	
139	3次面	10号遺構	1	3	手塩皿	50%	器面凹凸	草文	-	-	呉須	
140	3次面	10号遺構	1	2	小鍋?	17%	鉄釉・腰下無釉・三足?	-	-	-	底部煤付着	
141	3次面	10号遺構	1	2	碗	20%	鉄釉	-	-	-	高台胎下無釉	瀬戸・美濃系?
142	3次面	10号遺構	1	2	合子	18%	-	-	-	-	灰釉?	
143	3次面	10号遺構	1	3	蓋	75%	山水画・二重圏線	-	-	-	-	
144	3次面	10号遺構	1	4	盃	35%	風景文	-	-	-	色絵・高台裏銘あり	肥前系
145	3次面	10号遺構	1	3	丸形碗	25%	-	-	-	-	灰釉・無文	
146	3次面	10号遺構	1	3	丸形碗	30%	草花文	-	-	-	呉須・高台際一重圏線	
147	3次面	10号遺構	1	1	皿	60%	-	-	-	-	カワラケ	在地系
148	3次面	10号遺構	1	2	天目茶碗	35%	透明釉に灰釉(黄白色)掛け	-	-	-	-	京焼系・明治～
149	3次面	10号遺構	1	3	皿	20%	-	-	-	ハリ痕2ヶ所	青磁釉・口縁部輪花	
150	3次面	10号遺構	1	3	皿	60%	唐草文・高台際二重圏線	-	-	五弁花文	呉須・高台内一重圏線	
151	3次面	10号遺構	1	3	香炉	60%	二重山形文・二重連弧文	-	-	蛇の目釉剥ぎ・底部穿孔(焼成後)・植木鉢として転用か	青磁釉・蛇の目凹形高台?・足跡?3ヶ所	中国系?
152	3次面	10号遺構	1	2	灯籠	80%	-	-	-	-	鉄釉・笠部六角形	箱庭道具
153	3次面	10号遺構	1	2	播鉢	-	-	放射播り目	-	-	鉄釉?鉄泥?	
154	3次面	10号遺構	1	3	壺	75%	山水画・肩部櫛目文	-	-	-	呉須	
155	3次面	10号遺構	1	6	不明	-	-	-	-	-	鉄滓付着・無釉	不明土製品
156	3次面	10号遺構	1	3	盃	75%	笹文	-	-	-	呉須	
157	3次面	10号遺構	1	3	小皿	50%	梅花文	-	-	-	呉須	
158	3次面	10号遺構	1	3	向付	70%	-	-	-	-	透明釉・無文	端反形
159	3次面	10号遺構	1	3	端反形碗	35%	松文	口縁部二重圏線	-	二重圏線内五弁花文	呉須・高台内二重圏線	
160	3次面	10号遺構	1	3	猪口	65%	若松文・壘付際二重圏線	-	-	-	呉須	蕎麦猪口
161	3次面	10号遺構	1	3	丸形碗	25%	草花文・高台際二重圏線	-	-	-	呉須・高台内文字あり	くらわんか手・肥前系
162	3次面	10号遺構	1	3	皿	99%	花唐草文	花鳥文	-	-	呉須・高台内一重圏線・高台内ハリ支え痕(1ヶ所)	163と同遺物
163	3次面	10号遺構	1	3	皿	80%	花唐草文	花鳥文	-	-	呉須・高台内ハリ支え痕(1ヶ所)・高台内一重圏線	162と同遺物
164	3次面	10号遺構	1	3	皿	80%	唐草文	花文	-	-	呉須・口縁部輪花・高台内一重圏線・高台内ハリ支え痕(1ヶ所)	116・165～168と同遺物
165	3次面	10号遺構	1	3	皿	80%	唐草文	花文	-	-	呉須・口縁部輪花・高台内一重圏線・高台内ハリ支え痕(1ヶ所)	116・164・166～168と同遺物
166	3次面	10号遺構	1	3	皿	75%	唐草文	花文	-	-	呉須・口縁部輪花・高台内一重圏線・高台内ハリ支え痕(1ヶ所)	116・164・165・167・168と同遺物
167	3次面	10号遺構	1	3	皿	75%	唐草文	花文	-	-	呉須・口縁部輪花・高台内一重圏線・高台内ハリ支え痕(1ヶ所)	116・164～166・168と同遺物
168	3次面	10号遺構	1	3	皿	25%	唐草文	花文	-	-	呉須・口縁部輪花・高台内一重圏線	116・164～167と同遺物
169	3次面	10号遺構	1	3	皿	25%	-	-	-	-	青磁釉・口紅装飾・無文	
170	3次面	10号遺構	1	2	湯飲碗	25%	-	-	-	-	灰釉・無文	信楽系・江戸後期
171	3次面	10号遺構	1	2	蓋	100%	竹文	無釉	-	-	-	肥前系?
172	3次面	10号遺構	1	2	蓋	35%	-	-	-	-	灰釉?	
173	3次面	10号遺構	1	3	碗	40%	草文	梅花文	-	二重圏線内五弁花文(コンニャク印判)・蛇の目釉剥ぎ	-	くらわんか手・肥前系
174	3次面	10号遺構	1	2	片口鉢	75%	-	-	-	足付ハマ溶着痕3ヶ所	鉄釉	瀬戸・美濃系
175	3次面	10号遺構	1	2	德利	35%	-	-	-	-	底部刻印(窯印?)	舟徳利形・備前系
176	3次面	10号遺構	1	2	ミニチュア碗	100%	絵柄5ヶ所	-	-	-	-	ままごと道具・信楽系
177	3次面	10号遺構	1	3	紅皿	100%	-	-	-	-	型押成形	
178	3次面	10号遺構	1	3	盃	75%	草花文	-	-	-	呉須	肥前系
179	3次面	10号遺構	1	3	盃	80%	-	-	-	-	透明釉・無文	二次被熱痕
180	3次面	10号遺構	1	3	丸形碗	20%	風景文	-	-	-	呉須・高台内「宣明」	肥前系・17c 後
181	3次面	10号遺構	1	3	皿	90%	-	-	-	蛇の目釉剥ぎ	青磁釉	波佐見系
182	3次面	10号遺構	1	2	皿	65%	-	-	-	胎土目積み痕(3ヶ所)	鉄釉・底部胎土目積み痕(3ヶ所)	越中瀬戸系・17c～18c
183	3次面	10号遺構	1	2	丸形碗	100%	花文	-	-	-	色絵	京・信楽系・二次被熱痕
184	3次面	10号遺構	1	2	片口鉢?	25%	-	-	-	-	鉄釉	瀬戸・美濃系
185	3次面	10号遺構	1	2	碗	25%	-	-	-	-	緑釉	瀬戸・美濃系
186	3次面	10号遺構	1	1	皿	40%	-	-	-	-	焼成良・胎土にぶい燈色	在地系
187	3次面	10号遺構	1	1	皿	20%	-	-	-	-	焼成良・胎明燈色	在地系
188	3次面	10号遺構	1	2	中皿	70%	-	-	-	蛇の目釉剥ぎ	灰釉	輪沓皿・瀬戸・美濃系
189	3次面	10号遺構	1	2	蓋	45%	-	胎土目積み痕(2ヶ所)	-	-	ツマミ上面に胎土目積み痕(3ヶ所)・緑釉?に長石釉散らし	肥前系
190	3次面	10号遺構	1	2	鉢	40%	無釉	回転刷毛目・鉄釉流し	-	砂目溶着痕(4ヶ所)	-	二彩唐津・肥前系

松代城下町跡 (M J 82) 出土陶磁器観察表 (4)

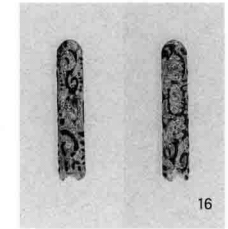
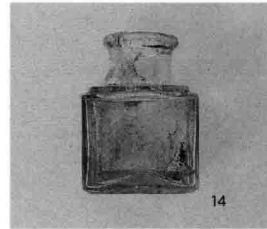
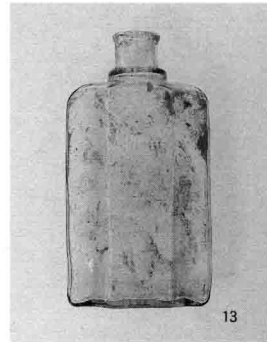
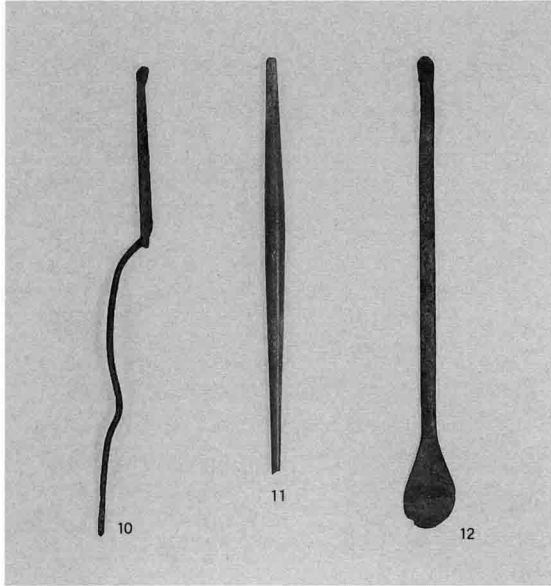
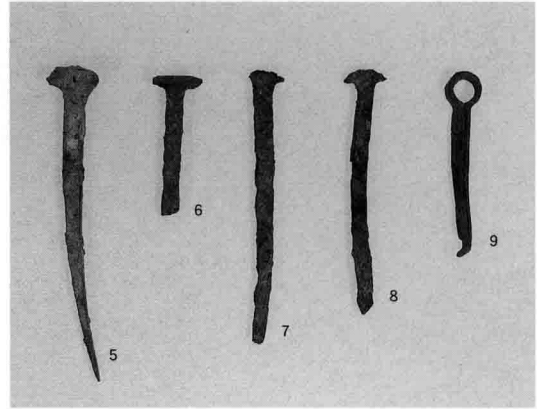
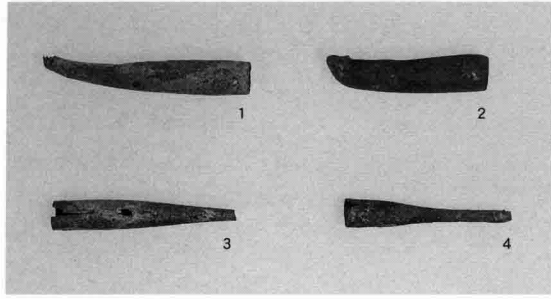
図版 番号	出土地点		種別	類別	器種	残存率 全体	調整・文様・その他				備考 推定産地・年代	
	調査面	遺構名					外面	内面	見込	その他		
191	3次面	10号遺構	1	2	鉢	15%	-	-	-	-	灰釉	信楽系? 腰鉾碗
192	3次面	10号遺構	1	2	搦鉢	10%	-	放射揺り目	-	-	焼締?	肥前系?
193	3次面	10号遺構	1	2	搦鉢	10%	-	放射揺り目	-	-	-	肥前系?
194	3次面	10号遺構	1	2	搦鉢	-	-	放射揺り目	-	-	鉄釉	瀬戸・美濃系
195	3次面	10号遺構	1	2	鉢	30%	-	-	-	-	-	瀬戸・美濃系・搦鉢
196	3次面	10号遺構	1	2	碗	-	薬灰釉	-	-	-	-	朝鮮唐津・江戸初期・肥前系
197	3次面	10号遺構	1	2	碗	-	-	-	目跡	-	-	朝鮮唐津・江戸初期・肥前系
198	3次面	10号遺構	1	2	碗	-	-	-	-	-	-	肥前系
199	3次面	11号遺構	1	3	不明	60%	牡丹唐草文・高台際一重圏線	-	-	-	高台内二重圏線・蛇の目高台	瀬戸・美濃系(志野)
200	3次面	11号遺構	1	2	花器	70%	花・葉・岩・雲・月・菱形文	-	-	-	-	筒形六角形・中国系?
201	3次面	11号遺構	1	2	皿	-	-	-	-	-	底部系切痕	
202	3次面	11号遺構	1	3	徳利	-	梅文	-	-	-	-	御神酒徳利
203	3次面	11号遺構	1	3	湯飲碗	15%	文字あり「稲荷山」	-	-	-	-	
204	3次面	11号遺構	1	1	甕	60%	ナデ・一部ケズリ	ナデ	-	-	底部穿孔(焼成後)	
205	3次面	14号遺構	1	3	皿	40%	唐草文・口縁部一重圏線・高台際二重圏線	波・貝文・口縁部一重圏線	二重圏線内五弁花文	-	高台内一重圏線・底部文字あり	肥前系
206	3次面	16号遺構	1	2	腰張碗	30%	-	-	-	-	-	肥前系京焼風陶器
207	3次面	16号遺構	1	3	腰張碗	30%	草花文	-	-	-	-	肥前系
208	3次面	16号遺構	1	3	皿	30%	無文	無文	-	-	透明釉	肥前系
209	3次面	16号遺構	1	3	盃	30%	草花文	-	-	-	-	肥前系
210	3次面	16号遺構	1	3	皿	-	草花文・高台際二重圏線	開き扇	-	-	-	肥前系
211	3次面	16号遺構	1	2	甕	20%	-	-	-	-	鉄釉掛け	肥前系
212	3次面	17号遺構	1	3	湯飲碗	50%	花蝶文	-	-	-	呉須	19c~
213	3次面	17号遺構	1	3	盃	25%	竹文	-	-	-	-	
214	3次面	17号遺構	1	2	丸形碗	30%	草文	-	-	砂目痕	-	京・信楽系?
215	3次面	17号遺構	1	2	甕	-	-	-	-	-	-	
216	3次面	17号遺構	1	6	土製品	-	-	-	-	-	脚・腹部残存・胎土に雲母を含む	
217	3次面	20号遺構	1	2	皿?	30%	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	底部系切痕	
218	3次面	23号遺構	1	1	甕?	-	ナデ・底部際撫目	ナデ・指ナデ	-	-	-	
219	3次面	検出面	1	1	小皿	25%	-	-	-	-	胎土にぶい橙色	
220	3次面	検出面	1	2	搦鉢	30%	-	-	-	-	鉄泥	肥前系
221	3次面	検出面	1	2	丸形碗	50%	梅文・高台二重圏線	-	-	-	コバルト	明治~
222	3次面	検出面	1	3	碗	-	網目文・高台二重圏線	-	-	草花文	-	肥前系・18c前
223	3次面	検出面	1	3	皿?	-	一重圏線・高台二重圏線	-	風景文	-	高台内一重圏線	肥前系・18c前
224	3次面	検出面	1	4	皿?	-	-	草花文	-	-	色絵	肥前系
225	3次面	検出面	1	2	鉢	-	貫入	貫入	-	-	-	
226	3次面	検出面	1	2	鉢	-	-	-	-	-	長石釉(志野)	瀬戸・美濃系
227	3次面	検出面	1	3	碗	10%	「寿」変形字	-	-	-	-	肥前系・18c前
228	3次面	検出面	1	3	蓋	20%	ツマミ際二重圏線	-	-	-	-	肥前系
229	3次面	検出面	1	3	鉢	5	草花文	紗綾形文・波	-	-	-	江戸末期
230	3次面	検出面	1	2	皿?	-	-	-	-	-	-	肥前系
231	4次面	1号遺構	1	3	丸形碗	30%	梅草花文・高台際一重圏線	-	五弁花文(コンニャク印判)	-	高台内一重圏線内文字あり	肥前系・くらわんか手
232	4次面	1号遺構	1	3	猪口?香炉?	30%	風景文・二重圏線・一重圏線	-	-	-	高台二重圏線	肥前系
233	4次面	1号遺構	1	3	蓋	20%	草花文・二重圏線	-	-	-	-	
234	4次面	1号遺構	1	3	丸形碗	75%	草花文・風景文	-	-	-	高台際二重圏線・高台内一重圏線	肥前系
235	4次面	1号遺構	1	3	丸形碗	5%	草花文	-	-	-	高台際一重圏線	肥前系
236	4次面	1号遺構	1	3	蓋	10%	蜻唐草文	-	-	-	-	
237	4次面	1号遺構	1	2	碗	5%	-	-	-	-	-	
238	4次面	2号遺構	1	3	腰張碗	30%	草花文(コンニャク印判)	-	-	-	-	
239	4次面	6号遺構	1	3	丸形碗	50%	竹笹文	-	-	-	呉須	肥前系・18c~
240	4次面	6号遺構	1	4	盃	30%	丁字文	-	-	-	-	
241	4次面	6号遺構	1	2	片口?	-	-	-	-	-	-	
242	4次面	24号遺構	1	3	香炉?	5%	一重圏線・高台際二重圏線	-	-	-	-	焼継痕

凡例

- 種別…1 土器・土製品 2 石製品 3 金属製品 4 植物製品 5 ガラス製品 6 その他の遺物
- 類別…1 土器・カワラケ 2 陶器 3 磁器(染付) 4 磁器(色絵) 5 瓦・土管 6 その他の土製品
- 残存率
全体…完形品に対する割合を百分率で示している



第29図 金属・骨角・ガラス製品実測図 (S=1/3)



その他の遺物観察表

図版 番号	出土地点		類別	種別	材質	名称	法量 (cm)				備考
	調査面	遺構名					a	b	c	d	
1	1次面	検出面	3	煙管	銅合金	煙管雁首	6.3	1.1 (高さ)	1.0 (小口径)	-	火皿欠損・内面羅字残存
2	1次面	1号遺構	3	煙管	銅合金	煙管雁首	4.9	1.4 (高さ)	1.1 (小口径)	-	火皿欠損
3	3次面	10号遺構	3	煙管	銅合金	煙管吸口	5.5	0.9 (小口径)	0.4 (口付部径)	-	口付部欠損
4	3次面	10号遺構	3	煙管	銅合金	煙管吸口	5.1	0.9 (小口径)	0.4 (口付部径)	-	口付部欠損
5	4次面	6号遺構	3	釘	鉄	頭巻釘	7.2	1.2 (頭部幅)	0.5 (体部幅)	0.3 (厚さ)	
6	4次面	6号遺構	3	釘	鉄	頭巻釘	3.2	1.1 (頭部幅)	0.4 (体部幅)	0.4 (厚さ)	
7	4次面	6号遺構	3	釘	鉄	頭巻釘	8.0	0.8 (頭部幅)	0.5 (体部幅)	0.3 (厚さ)	
8	4次面	6号遺構	3	釘	鉄	頭巻釘	5.5	0.9 (頭部幅)	0.4 (体部幅)	0.4 (厚さ)	先端部欠損
9	3次面	10号遺構	3	金具他	鉄	不明鉄製品	4.2	0.8 (幅)	0.4 (厚さ)	-	頭部環状を呈する・建築金具か
10	2次面	1号遺構	3	日用品	銅	弁?	13.6	0.52 (幅)	0.3 (厚さ)	-	
11	3次面	17号遺構	6	日用品	骨角	耳接ぎ	12.0	6.0 (幅)	-	-	頭部・先端部共に欠損
12	1次面	検出面	3	日用品	銅合金	薬匙	13.6	0.45 (幅)	1.5 (匙部幅)	0.3 (厚さ)	完形・頭部背面も小匙形
13	1次面	1号遺構	5	日用品	ガラス	硝子瓶	9.1	1.6 (口径)	4.9 (幅)	2.4 (厚さ)	化粧品類の瓶か
14	2次面	検出面	5	日用品	ガラス	硝子瓶	4.6	2.2 (口径)	3.4 (幅)	-	インク瓶
15	3次面	15号遺構	5	日用品	ガラス	硝子瓶	6.8	1.55 (口径)	3.5 (幅)	-	薬瓶・目盛り付
16	3次面	12号遺構	5	日用品	ガラス	簪?	4.3	0.8 (幅)	0.6 (厚さ)	-	唐草文・被熱痕あり

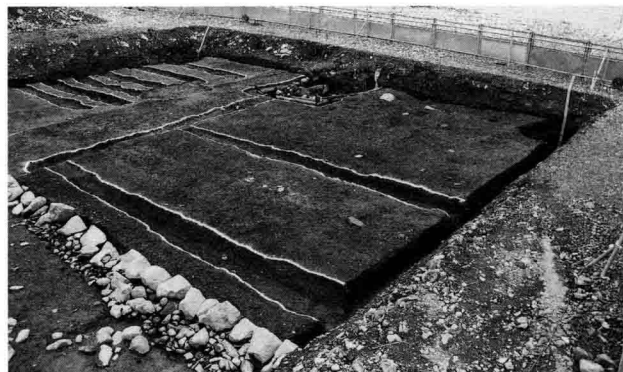
凡例

○類別…1:土器・土製品 2:石製品3:金属製品 4:植物製品 5:ガラス製品 6:その他の遺物

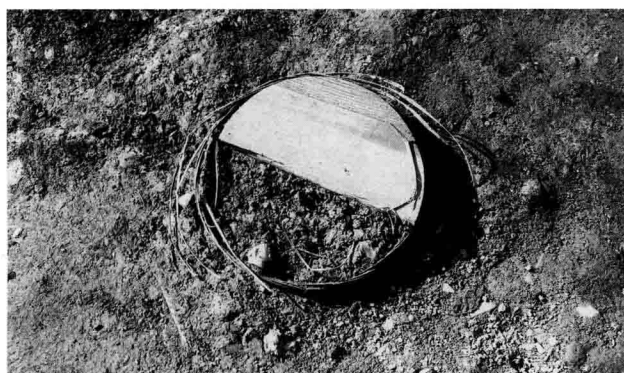
○法量…a:全長ないし全高を示す



①-1



①-2、3



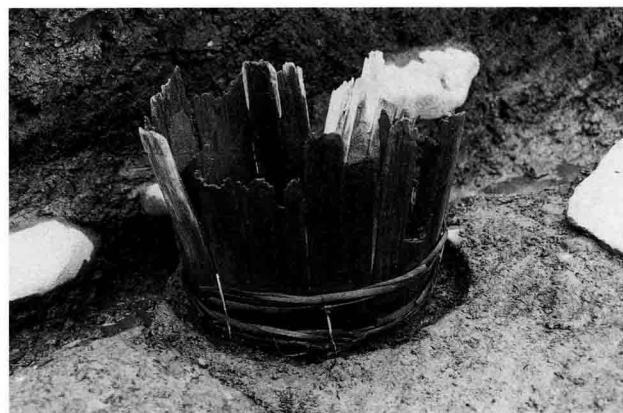
④-25



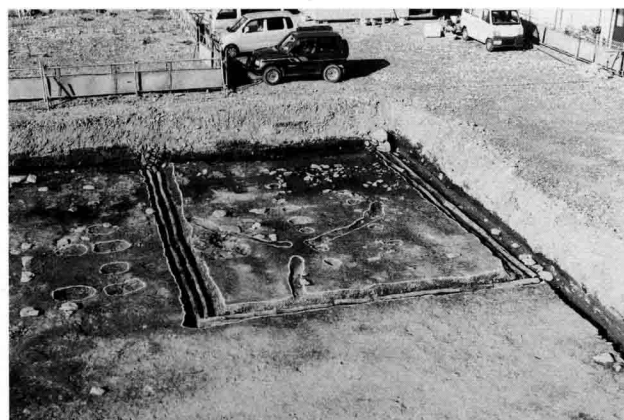
③-4



③-11



③-3



③-30~35



④-1

第三章 まとめ

第1節 絵図史料から見る土地利用

開発予定地は松代町の中心部にあたり、武家屋敷の推定地である。それも1軒当たりの屋敷面積が大きいことを考慮すれば、松代藩の政治体制のなかでも比較的上級武士の屋敷地と考えられる。真田家文書などの古文書や絵図面などに記載された当該地における土地利用の推移について、災害との関係から概説する。

近世松代城下町の災害については、大火をまとめた北村保（北村1987・1992）や、戌の大満水を考察した丸山岩三（丸山1990）の論文がある。今回の発掘調査では、明確な洪水層については確認できなかったが、焼土層からは多量の出土遺物に恵まれた。しかし焼土層は上層の攪乱による混入が著しく、明確な時期比定はできなかった。北村の考察により、今回の発掘調査地である殿町が被災した大火を挿入して土地利用の推移を見てみたい。

1	2004（平成16）年	八十二銀行松代支店（新築開店）
2	2003（平成15）年	更地（発掘調査実施）
3	～2002（平成14）年	松代ショッピングセンター（西友松代店）
4	1955（昭和30）年代	原松代製糸所
5	1913（大正2）年	本六工社製糸松代出張所？
◎	1870（明治3）年	午札騒動
6	1868（明治初）年	飯島新兵衛
7	1850（嘉永3）年頃	恩田孝太郎
◎	1847（弘化4）年	善光寺大地震
8	1826（文政9）年	恩田右膳
◎	1800（寛政12）年	市場火事
◎	1788（天明8）年	河内屋火事
9	1750（寛延3）年	恩田新六
◎	1742（寛保2）年	戌の大満水
◎	1733（享保18）年	荒町火事
◎	1717（享保2）年	湯本火事

発掘調査では江戸時代後期までの遺物しか確認できていないが、恩田家の屋敷地と考えられる。参考までに『真田家家中明細書』に記された前述の2名について、その役職などの推移を挙げる。

◎ 恩田右膳（高500石）

1	1781（安永10）年	御用人見習
2	1787（天明7）年	家督相続
3	1815（文化12）年	50石加増
4	1824（文政7）年	御城代

◎ 恩田孝太郎（高500石）

1	1834（天保5）年	家督相続
2	1846（弘化3）年	孝太郎 義新六と改名
3	1848（嘉永2）年	御側御用人
4	1853（嘉永6）年	惣御旗奉行
5	1860（安政7）年	大目付
6	1862（文久2）年	御城代
7	1863（文久3）年	御中老職
8	1867（慶応3）年	御城代
9	1871（明治4）年	大尉

第2節 遺構から見た武家屋敷地の一様相

今回の発掘調査にて検出された遺構のうち、江戸時代と考えられる遺構は③次面以下、つまり焼土層（③-10・15~17）、建物跡（③-18~23・29・34・35）、土坑（③-30・④-2）、溝状遺構（③-11・12・31~33・④-5・7）埋め桶（③-3・4・④-25）、池状遺構（④-1・6・24）などがある。これらの性格としては文献の記載にある恩田家の屋敷に關係する遺構である可能性が考えられる。建物遺構は、松本城下町跡の発掘調査成果によると、16世紀後半は掘立柱建物が主流であり、17世紀前半には掘立柱建物が消滅し、礎石・布掘り礎石へ変化するという（竹内2000）。今回の発掘調査では16・17世紀代の遺構は未確認であるが、松代においても同様な傾向がみられるものと考えられる。

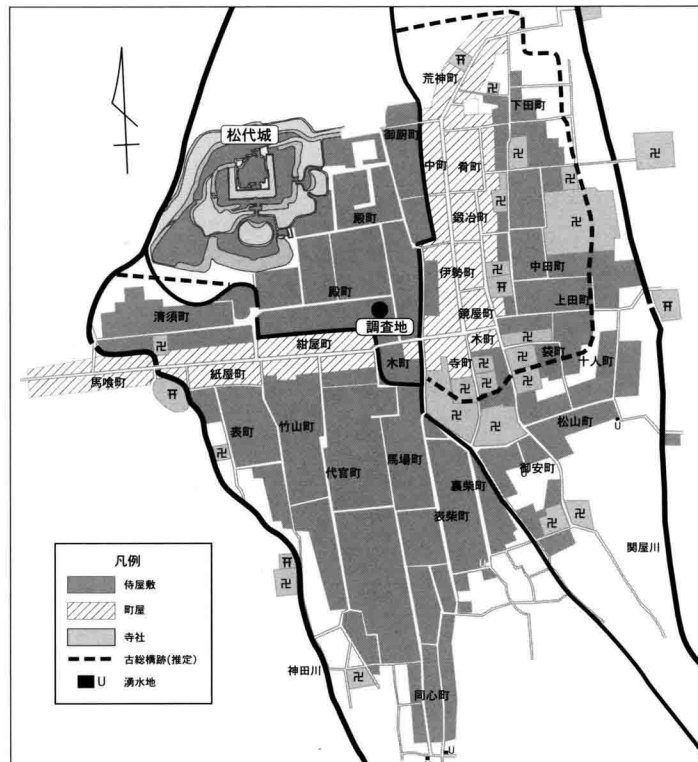


図30 松代城下町の土地利用図
(文政年間(1823年頃)、北村1988を加筆・修正)

第3節 水関係の遺構

水関係の遺構としては、木樋・竹樋、分かれ枡・集水枡、井戸などは検出されなかったが、石組み溝（③-11・④-7）や木組み溝（③-12）、池状遺構（④-1・6・24）があげられる。

石組み溝（③-11）は前述のとおり、現状においては雨落ち溝程度の規模ではあるが、国立史料館所蔵の『真田家文書』（26A さ1156、時期不明ながら19世紀前半か？）には、当該地を斜めに流れる泉水路が描かれており、これに該当する可能性も否定できない。また直接的な関係は不明であるが、排水機能が想定される木組み溝（③-12）と池状遺構（④-24）と切り合っており、泉水路としての機能を想定する一助となりうるであろう。松代には全国的にも珍しい、様々な水系システムが存在している（長野市教委1982）。道路の中心を流れる「カワ」、宅地裏の境界線である背割を流れ武家地の菜園を潤す「セギ」、生活用水として屋敷地の泉水を直接つなぐ「泉水路」である。松代中央線の発掘調査で確認された木樋による上水施設の存在が明らかとなり、松代城下町全体において複雑で高度な水道施設が整備されていたことが推測できる。

引用・参考文献

- 飯田市教育委員会 2001 『飯田城下町遺跡』
- 飯山市教育委員会 2002a 『飯山城下情報センター敷地内遺跡』飯山市埋蔵文化財調査報告 第65集
- 飯山市教育委員会 2002b 『長野県史跡飯山城跡遺構確認調査報告』飯山市埋蔵文化財調査報告 第67集
- 江戸遺跡研究会編 2001 『図説 江戸考古学研究辞典』柏書房
- 江戸東京博物館編 1993 『江戸東京博物館総合案内』財団法人江戸東京歴史財団
- 大塚初重ほか 1994 『八百八町の考古学』シンポジウム江戸を掘る 山川出版社
- 大橋康二編 1988 「肥前磁器の変遷図」『別冊太陽 古伊万里』日本のこころ63 平凡社
- 大橋康二 1989 『肥前陶磁』考古学ライブラリー55 ニュー・サイエンス社
- 大橋康二 2000 「九州陶磁概論」『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会10周年記念 図録
- 大橋康二 1995 「建築史からみた発掘資料」『季刊考古学』第53号 特集江戸時代の発掘と文化 雄山閣出版
- 北原糸子 1999 『江戸城外堀物語』ちくま新書209 筑摩書房
- 北村 保 1987 「松代藩士の見聞録にみる江戸後期の松代城下町」『松代』—真田の歴史と文化—創刊号 真田宝物館
- 北村 保 1992 「近世松代火難雑考」『松代』—真田の歴史と文化—第5号 真田宝物館
- 北村 保 1993 「享保二年松代城類火焼失録」『松代』—真田の歴史と文化—第6号 真田宝物館
- 古泉 弘 1983 『江戸を掘る』—近世考古学への招待— 柏書房
- 古泉 弘 1985 「江戸の街の出土遺物 —その展望—」『季刊考古学』第13号 特集江戸時代を掘る 雄山閣出版
- 古泉 弘 1987 『江戸の考古学』考古学ライブラリー48 ニュー・サイエンス社
- 国立史料館編 1986 『真田家家中明細書』財団法人東京大学出版会
- 斎藤 進 1997 「汐留遺跡における上水施設について」『汐留遺跡Ⅰ』東京都埋蔵文化財センター調査報告第37集
- 坂詰智美 1999 『江戸城下町における「水」支配』専修大学出版局
- 佐々木邦博・米林由美子・平岡直樹 2001 「城下町松代(殿町地区)において江戸時代に造られた泉水路の形成過程とその用途」『日本造園学会誌』VOL.64 NO.5 日本造園学会
- 佐々木達夫 1985 「物資の流れ —江戸の陶磁器—」『季刊考古学』第13号 特集江戸時代を掘る 雄山閣出版
- 寒川典昭・山下伊千造・南志郎 1992 「千曲川下流の歴史洪水の復元と考察」『土木史研究』第12号
- 信州大学工学部建築工学科松本研究室 1984 『長野市松代三町伝統環境保存計画策定調査報告書』
- 新宿区内藤町遺跡調査会ほか 1992 『内藤町遺跡』
- 竹内誠監修 2002 『ビジュアルガイド江戸時代館』全1巻 小学館
- 竹内 靖長 2000 「松本城下町における成立過程の様相」『信濃』第52巻第10号 通巻第609号 信濃史学会
- 東京大学埋蔵文化財調査室 1998 『東京大学構内遺跡調査研究年報』2
- 東京都教育委員会 1991 『東京の遺跡展』—お江戸八百八町地下探検— 図録
- 長野市教育委員会 1982 『庭園都市 松代』伝統的建造物群保存対策調査報告書
- 長野市教育委員会 1984 『潤いのある庭園都市づくり』
- 長野市教育委員会 1993 『史跡 松代藩主真田家墓所』長野市の埋蔵文化財第59集
- 長浜文化財シンポジウム実行委員会 2000 『近世城下町の諸相』シンポジウム発表資料
- 日本貨幣商協同組合 2001 『日本貨幣カタログ』
- 林英夫・青木美智男編 2001 『事典 しらべる江戸時代』柏書房
- 降矢 哲男 2001 「甲信地方における肥前陶磁の出土状況について」『国内出土の肥前陶磁』第11回九州近世陶磁学会資料
- 堀越 正雄 1995 『日本の上水』増補改訂 新人物往来社
- 本田博太郎 1970 『松代町の民家』長野県教育委員会
- 松代藩文化施設管理事務所 1999 『城下町松代』真田宝物館開館三〇周年記念 特別展図録
- 松本市 1989 『史跡松本城北外堀外側土塁発掘調査報告書』
- 松本市教育委員会 1989a 『史跡松本城黒門枡形内発掘調査報告書』
- 松本市教育委員会 1989b 『松本市城西馬出遺跡緊急発掘調査報告書』松本市文化財調査報告書 No79
- 松本市教育委員会 1996 『松本城下町跡 伊勢町—近世・町屋跡の発掘調査—』松本市文化財調査報告書 No122
- 松本市教育委員会 1997 『松本城下町跡 伊勢町第8・9・12次、本町第1・2次』—平成8年度試掘調査報告書— 松本市文化財調査報告書 No129
- 松本市教育委員会 2000 『松本城下町 本町第5次、伊勢町第19・21・22次、中町第1・2次、宮村町第1次』—平成10・11年度試掘調査報告書— 松本市文化財調査報告書 No149
- 松本市教育委員会 2001 『松本城下町 伊勢町第23・24・25次』—平成12年度試掘調査報告書— 松本市文化財調査報告書 No154
- 丸山 岩三 1990 「寛保2年の千曲川洪水に関する研究(1)~(4)」『水利科学』第34巻第1~4号
- 山田啓一・田辺淳 1985 「千曲川における寛保2年(1742)8月大洪水の考察」『第5回日本土木史研究発表会論文集』

報告書抄録

ふりがな	まつしろじょうかまちあと ～とのまち～						
書名	松代城下町跡（2）～殿町～						
副書名	八十二銀行松代支店新築工事にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財						
シリーズ番号	第110集						
編著者名	飯島哲也・宮沢浩司・森田利枝						
編集機関	長野市教育委員会 長野市埋蔵文化財センター						
所在地	〒381-2212 長野県長野市小島田町1414番地 TEL 026-284-0004・FAX 026-284-0106						
発行年月日	2005（平成17）年3月31日						
印刷所	奥山印刷工業株式会社（〒381-0022 長野市大豆島本郷前5959-1 TEL 026-221-3243）						
所収遺跡	所在地	コード		経緯度	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				
まつしろじょうかまちあと 松代城下町跡	ながの けんながの し まつしろまち 長野県長野市松代町 まつしろ 松代174-1 他	20201	F-033	北緯 36° 33' 34" 東経138° 12' 11"	20031001 ～ 20031106	390m ²	店舗建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
松代城下町跡	集落跡	江戸時代後期	石組溝状遺構、埋め桶、土坑	陶磁器、土器・土製品 金属製品（釘、煙管、筭など） 骨角製品（耳搔き） ガラス製品（瓶など）			
		江戸時代末期～ 明治時代初期	石組溝状遺構、木組溝状遺構石、埋桶、土坑				
		明治時代前期～ 昭和初期	石積み遺構、暗渠遺構				
		昭和	板組遺構、溝状遺構				
要約	調査地は、松代城下町の中央部に位置し、上級武士の屋敷地にあたる。調査では、江戸時代後期から明治にかけての埋め桶や石組みの溝状遺構、土坑などを確認した。						

長野市の埋蔵文化財 発掘調査報告書一覧

1968年	第1集	【信濃長原古墳群】	1994年	第60集	【猪平遺跡・宮ノ下遺跡】
1976年	第2集	【浅川西条】	第61集	【栗田城跡(2)】	
1978年	第3集	【中村遺跡】	第62集	【浅川扇状地遺跡群 三輪遺跡(5)・小島柳原遺跡群 上中島遺跡】	
	第4集	【塩崎遺跡群】	第63集	【松原遺跡Ⅳ】	
1979年	第5集	【塩崎遺跡群(2)】	第64集	【小島柳原遺跡群 宮西遺跡】	
1980年	第6集	【三輪遺跡 -付水内坐一元神社遺跡】	第65集	【浅川扇状地遺跡群 幸礼バイパスB地点遺跡(2)】	
	第7集	【田中沖遺跡】	第66集	【石川条里遺跡(8)】	
	第8集	【篠ノ井遺跡群】	1995年	第67集	【浅川扇状地遺跡群 本村東沖遺跡Ⅱ】
	第9集	【四ツ屋遺跡(第1～3次)・徳間遺跡・塩崎遺跡群(3)】	第68集	【栗田城跡(3)】	
1981年	第10集	【湯谷古墳群・長礼山古墳群・駒沢新町遺跡】	第69集	【浅川扇状地遺跡群 徳間本堂原遺跡】	
	第11集	【箱清水遺跡・大峰遺跡・大清水遺跡】	第70集	【八幡田沖遺跡】	
1982年	第12集	【浅川扇状地遺跡群 -幸礼バイパスA・E地点】	第71集	【浅川扇状地遺跡群 ニッ宮遺跡(2)・吉田町東遺跡】	
1983年	第13集	【浅川扇状地遺跡群 迎田遺跡・川田条里的遺構・石川条里的遺構】	第72集	【塩崎遺跡群(8)・石川条里遺跡(9)】	
1984年	第14集	【石川条里的遺構(2)・上駒沢遺跡】	第73集	【松代城跡】	
	第15集	【箱清水遺跡(2)】	第74集	【松代城跡Ⅱ】	
1985年	第16集	【石川条里的遺構(3)・(付上駒沢遺跡)】	1996年	第75集	【浅川扇状地遺跡群 吉田四ツ屋遺跡・三輪遺跡(6)・粟河原遺跡】
1986年	第17集	【浅川扇状地遺跡群 -幸礼バイパスB・C・D地点】	第76集	【浅川扇状地遺跡群 駒沢城跡・小島柳原遺跡群 中俣遺跡Ⅲ】	
	第18集	【塩崎遺跡群Ⅳ 市道松節-小田井神社地点遺跡】	第77集	【浅川扇状地遺跡群 松ノ木田遺跡】	
1987年	第19集	【土口将軍塚古墳 -重要遺跡確認緊急調査-】	第78集	【布施塚1号古墳・2号古墳】	
	第20集	【三輪遺跡(2)】	1997年	第79集	【粕尾南遺跡】
	第21集	【芹田小学校遺跡】	第80集	【小島・柳原遺跡群 水内坐一元神社遺跡Ⅱ】	
	第22集	【長野吉田高校グランド遺跡】	第81集	【裾花川扇状地遺跡群 村南遺跡】	
1988年	第23集	【横田遺跡群 富士宮遺跡】	第82集	【浅川扇状地遺跡群 松ノ木田遺跡Ⅱ】	
	第24集	【塩崎遺跡群Ⅴ 殿屋敷遺跡】	第83集	【下箕ヶ谷遺跡】	
	第25集	【小島柳原遺跡群 南川向遺跡】	第84集	【浅川扇状地遺跡群 吉田古屋敷遺跡】	
	第26集	【東香場遺跡】	第85集	【上九反遺跡】	
	第27集	【小柴見城跡】	第86集	【裾花川扇状地遺跡群 寺村遺跡】	
	第28集	【宮崎遺跡】	1998年	第87集	【長野遺跡群 西町遺跡】
	第29集	【浅川扇状地遺跡群 浅川端遺跡】	第88集	【小島柳原遺跡群 水内坐一元神社遺跡Ⅲ】	
	第30集	【地附山古墳群】	第89集	【裾花川扇状地遺跡群 尾張城跡】	
	第31集	【町川田遺跡】	第90集	【西前山古墳】	
1989年	第32集	【中条遺跡】	第91集	【裾花川扇状地遺跡群 西方遺跡・中沢城館跡】	
	第33集	【鶴前遺跡】	第92集	【松原遺跡Ⅴ】	
	第34集	【石川条里遺跡(4)】	第93集	【粟河原遺跡(2)・田中沖遺跡Ⅲ】	
	第35集	【篠ノ井遺跡群Ⅱ】	第94集	【浅川扇状地遺跡群 小坂屋遺跡】	
1990年	第36集	【屋地遺跡Ⅱ】	第95集	【綿内遺跡群 高野遺跡】	
	第37集	【篠ノ井遺跡群Ⅲ】	2000年	第96集	【南宮遺跡Ⅱ】(第1分冊・遺構編)
1991年	第38集	【栗田城跡・下宇木遺跡・三輪遺跡(3)】	2001年	第96集	【南宮遺跡Ⅱ】(第2分冊・遺物編)
	第39集	【塩崎遺跡群(6)・石川条里遺跡(5)】	第97集	【長野吉田高校グランド遺跡Ⅱ】	
	第40集	【松原遺跡】	第98集	【川田氏館跡・岩崎遺跡Ⅱ】	
	第41集	【小島柳原遺跡群 中俣遺跡・浅川扇状地遺跡群 押鐘遺跡・檀田遺跡】	第99集	【浅川扇状地遺跡群 徳間榎田遺跡】	
1992年	第42集	【田中沖遺跡Ⅱ】	2002年	第96集	【南宮遺跡Ⅱ】(第3分冊・写真編)
	第43集	【南宮遺跡】	第100集	【四ツ屋遺跡Ⅱ】	
	第44集	【塩崎遺跡群(7)】	第101集	【篠ノ井遺跡群(5)】	
	第45集	【石川条里遺跡(6)】	2003年	第102集	【浅川端遺跡(2)・差出遺跡 三合塚西古墳・石川条里遺跡(10)】
	第46集	【篠ノ井遺跡群(4)】	2004年	第103集	【篠ノ井南条遺跡・浅川扇状地遺跡群辰巳池遺跡・浅川扇状地遺跡群本郷前遺跡】
	第47集	【浅川扇状地遺跡群 ニッ宮遺跡・本堀遺跡・柳田遺跡・稲添遺跡】(2分冊)	第104集	【浅川扇状地遺跡群 天神木遺跡・樋爪遺跡・権現堂遺跡】	
	第48集	【小島柳原遺跡群 中俣遺跡Ⅱ】	第105集	【浅川扇状地遺跡群 檀田遺跡(2)】	
1993年	第49集	【浅川扇状地遺跡群 三輪遺跡(4)】	第106集	【綿内遺跡群 南条遺跡】	
	第50集	【浅川扇状地遺跡群 本村東沖遺跡】	第107集	【裾花川扇状地遺跡群 西方遺跡(2)】	
	第51集	【松原遺跡Ⅱ】	第108集	【浅川扇状地遺跡群 桐原宮西遺跡・権現堂遺跡・吉田古屋敷遺跡・逸日遺跡】	
	第52集	【田牧居婦遺跡】	第109集	【松代城下町跡 ～中木町・西木町・紺屋町～】	
	第53集	【岩崎遺跡】			
	第54集	【古町遺跡流入塚】			
	第55集	【浅川扇状地遺跡群 駒沢新町遺跡Ⅱ】			
	第56集	【上見林遺跡】			
	第57集	【石川条里遺跡(7)】			
	第58集	【松原遺跡Ⅲ】			
	第59集	【史跡松代藩主真田家墓所】			

長野市の埋蔵文化財第110集

松代城下町跡(2) ～殿町～

平成17年3月24日 印刷

平成17年3月31日 発行

発行 長野市教育委員会

編集 文化財課埋蔵文化財センター

印刷 奥山印刷工業株式会社